

Mwe シニア会会報

Mwe Senior Club

NEWS LETTER

No.25 2011 年 9 月

目 次

巻頭言	堀 重和氏	1
報告 「小林禧夫埼玉大学名誉教授業績賞受賞」		2
報告 「平成 23 年度 Mwe シニア会総会議事録」	風神 裕氏	3
報告 「東日本大震災のお見舞い」	井下 佳弘氏	7
寄稿 「ああ～男は哀しい！」	青野 義夫氏	10
寄稿 「ハイノ探検記」	高松 秀男氏	22
寄稿 「続 オーストリア・ドイツのオペラ旅行」	春日 義男氏	35
寄稿 「考える人」	柴富 昭洋氏	41
会社紹介 「ウエイブ・エレクトロニクス・ジャパン株式会社」	泉 彰氏	45
趣味悠々 「アルテック(ALTECH)スピーカー 604-8H との 30 年」	M.MATSUNAGA	49
自己紹介	風神 裕氏	53
同好会報告	高松 秀男氏	56
Mwe シニア会行事の状況と今後の活動計画		58
役員一覧	表紙裏	

Mwe シニア会

Mwe シニア会

平成 22 年度役員一覧（敬称略）

会長	堀 重和
副会長	柴富 明洋
幹事長	井下 佳弘
会計幹事	風神 裕
幹事	春日 義男
監事	奥野 清則

運営委員：

編集委員：委員長・柴富 昭洋、
高松 秀男、三島 克彦
企画委員：井下 佳弘、
同好会活動委員：奥野 清則、平井 克己
ゴルフ同好会幹事：高松 秀男、平井 克己
囲碁同好会幹事：平井 克己、平野 裕
北爪 進
ホームページ委員：委員長・風神 裕、
北爪 進、三島 克彦、柴富 昭洋
海外研修企画委員：小林 禧夫、泉 彰

発行者 Mwe シニア会
発行責任者 堀 重和
事務局 〒225-0002
横浜市青葉区美しが丘 1-12-46
堀 重和

TEL/FAX： 045-902-8772

発行日： 2011 年 9 月 30 日

巻頭言

会長 堀 重和

本年6月3日のMweシニア会総会で、会長に再選されました堀 重和です。同総会で、副会長に柴富 昭洋様、幹事長に井下 佳弘様、会計幹事に風神 裕様が再選され、監事に奥野 清則様が新任となりました。シニア会メンバーの皆様のご協力のもとMweシニア会の発展に努めさせていただきますので、宜しくお願い致します。



今年度の活動計画としてはゴルフ大会（4回）、囲碁集会、「虹色菜園」収穫祭、MWE2011 後夜祭等を計画しています。皆様の積極的な参加をお願いします。またシニア会の会報は2回の発行を予定していますが、会誌での配布かHPへの掲載かを今後検討・協議していきます。

今年3月11日の東日本大災害では福島県いわき市にあるアルパイン(株)も被災しましたが(震度6、ただし私は海外出張中で直接被害は無し)、シニア会の皆様からの多くのお見舞いただき、有難うございました。幸いアルパイン従業員とその家族では最悪の事態は無く、2週間後の28日から全面的に事業再開することが出来ました。しかしながら、新聞紙上を賑わせた自動車用部品の欠品（特にルネサスの那珂工場）では代替部品への置き換え、顧客への説明と超多忙な時間を過ごしました。とくにベンツ、Audi、BMW等は1台の値段が500万円から2,000万円もするため、1,000個の部品無いと売り上げが100億円減となるため、目の色変えての動きとなったのが従来に無い経験でした。一方いわき名物であるゴルフ、温泉、小名浜魚料理はまだ復活しておらず、単身赴任の小生としてはさびしい日々となっています。

この半年は大震災以外に日本政府の迷走、急速な円高、なでしこ Japan 優勝等 Dynamic な状況が多く有りましたが、シニア会では会員が「集う」機会を企画していきますので、皆様には積極的な参加をお願いします。また皆様からは Home Page の活性化、新しい活動テーマ等での新しい提案お待ちしております。

Mweシニア会をさらに発展、活性化すべく幹事団は活動する決意ですので皆様のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

以上

報告

小林禧夫埼玉大学名誉教授業績賞受賞

本会会員の小林禧夫埼玉大学名誉教授が本年5月28日に電子情報通信学会より業績賞を受賞されました。先生の長年の研究の中で、“複素誘電率の高精度測定法の確立とそのマイクロ波応用技術の確立”が電子情報通信学会より、電子工学及び情報通信に関する新しい発明、理論、実験、手法などの基礎的研究であり、その成果が学問分野への貢献が明確であるもの、あるいは電子工学及び情報通信に関する新しい機器、または方式の開発、改良、国際標準化でその効果が顕著であり、その業績が明確になったとし、研究成果が基礎的研究成果と評価技術が国際規格となり受賞されました。

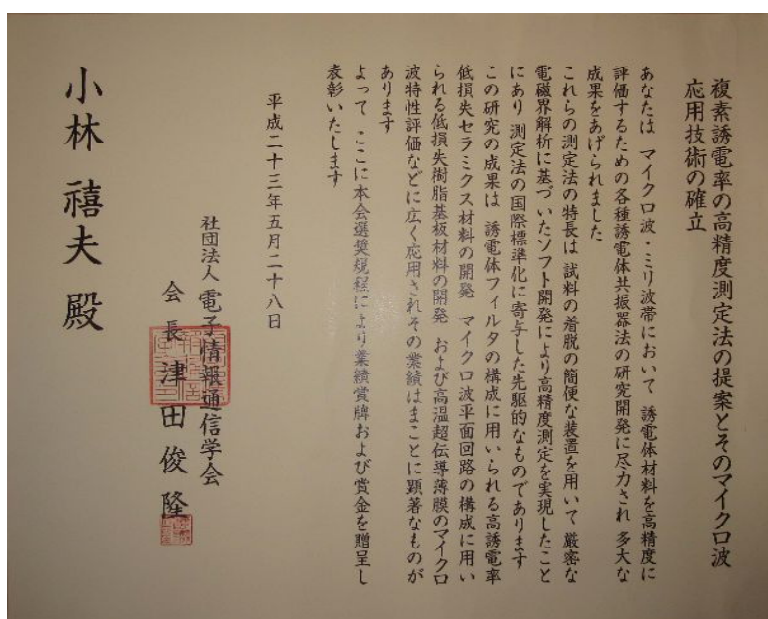


先生は誘電体共振器の厳密な電磁界解析を世界に先駆けて成功し、すべての共振モードに関する共振周波数の高精度計算法を確立しました。その解析を基に誘電体円柱試料を評価するための両端短絡形誘電体円柱共振法を確立しました。本手法はセラミック円柱の評価技術は国際規格として各国で採用され、新材料開発に利用されました。その一例として高誘電体低損失かつ高安定温度特性のセラミックス材料が開発された結果、さまざまな小型誘電体フィルターが開発されました。勃興期にあった移動体通信基地局用フィルターとして採用されましたにはほんの一例です。

(文責：柴富)



5月28日の受賞式で授与されたメダルと賞状



報告

Mweシニア会平成23年度年次総会 議事録

平成23年6月3日(金) 15:00-17:00

メルパルクTOKYO 2F 楓の間

風神 裕

出席者(敬称略): 青野、赤田、井下、北爪、紅林、小林、柴富、鈴木、高木
高橋、高松、谷口、遠山、橋本、平野、堀、本間、松本、
三浦、三島、風神、春日、以上22名

委任状: 25通

井下幹事長から、上記のとおり出席者と委任状の総数47で、会員数58の80%となり総会は成立するとの報告があり、以下の通り総会が開催された。

資料: 1)Mweシニア会平成23年度年次総会 (当日配布)

2)H23年度予算案とH22年度実績 (当日配布)

1. 会長挨拶および平成22年度の総括

堀会長

平成22年度の活動概要、特に参加メンバーの固定化が課題、東日本大震災関連、会の活性化についての挨拶があった。

2. 議事

第1号議案 平成22年度活動報告並びに平成23年度活動計画 (資料1)

1.1および1.2 22年度事務報告および今年度計画

井下幹事長から資料に基づき、平成22年度活動概要が報告された。

- ・会費は今年度も5,000円とする。
- ・退会者3名(関延氏、上野氏、鳥塚氏)。現会員数は58名である。
- ・平成23年度計画として、ゴルフ大会4回、「虹色菜園」収穫祭、MWE2011後夜祭。運営委員会2回。会報2回発行など。

1.3 会報発行状況及び今年度計画

柴富編集委員長から昨年は会報23号、24号を発行したこと、今年度も二回の発行を予定しているとの報告があった。また、次の議題であるHPとの関連で会報のあり方について総会で議論してほしいとのコメントがあった。

1.4 HP活動状況及び今年度計画

風神HP委員長から昨年10月にリニューアルしたHPおよびアクセス状況について報告があった。

上記1.3項、1.4項の会報とHPについて、会の活性化も含めて議論が行われた。

主たる意見: ①会報は廃止しても良いのではないかな。

②会報はPW管理の下でHP掲載すれば良いのではないかな。

③HPアクセスを増やすには先ず会そのものの活性化が必要であろう。

1.5および1.6 ゴルフ同好会および囲碁同好会活動状況及び今年度計画

高松幹事からゴルフ同好会の、平野幹事から囲碁同好会の報告があった。

2号議案 平成22年度決算並びに平成23年度予算案（資料1、2）

風神会計幹事から資料に基づき会計報告があり、松本監事から監査結果報告があった。松本監事からは①会則に基づいて会計報告と会の業務遂行についての監査報告であること、②後発事象として平成22年度の会計年度がH22/4/1からH23/4/30までの13ヶ月間になっていることの説明があった。

以上の1号議案6件および2号議案の報告と計画について、討議結果を尊重して今年度計画を進めることを条件に決議の結果、賛成多数で可決した。

3. 役員改選

議長より、今回の総会終了を以って、現役員は任期満了で退任するとの報告があった。次いで、新役員は会則5項で「会員全員の選挙によって選出される」と定められているが、全員選挙の手間暇と新体制発足までの時間経過を熟慮し、事前に、幹事長より、新役員の自薦・推薦を会員全員に依頼していた。北爪会員より、現役員を再任、監事を奥野氏とする提案があった。本提案につき討議の後、賛成多数を持って本総会で新役員を選出することに決定した。

新役員

会長：堀 重和、 副会長：柴富 昭洋、 幹事長：井下 佳弘、
会計幹事：風神 裕、 監事：奥野 清則
会誌編集委員長：柴富 昭洋、 ホームページ委員長：風神 裕

4. 決議事項

堀新会長の要請により、昨年度来の懸案事項であった会報の電子化、HPのパスワードに関する方針について、柴富編集委員長、風神HP委員長より、以下の通りの説明があり、了解された。

- ・会報の発行：製本形態の会報は、次号(25号)までとし、それ以降はHP掲載のみ（会報の製本形態が1回になった為、2号議案にて審議された予算の該当部分は、行事費に振り向けることし、予算総額を変更しない。）
- ・HPのパスワード：総会資料、会報にはパスワードを設ける（その他必要に応じパスワード化するが、極力パスワード無しとする。準備中のチャットルームもパスワード無しとする。）

4. 閉会

柴富副会長より、平成22年度総会を運営委員各位および出席会員の熱意と協力により無事終えることが出来た。新役員の下での一層の活性化を期待しますとの辞により閉会した。

[その他]

総会終了後、講演会「東日本大震災の体験」が開催された。仙台市をベースとする東北大高木教授、いわき市をベースとする堀会長からの体験談があり、全員、真摯に聴講致しました。

以上

総会風景：左より井下幹事長、堀会長、柴富副会長



講演会風景：東日本大震災被害者、高木直教授、堀重和会長



【文書の引用文や注目すべき箇所の要約を入力してください。テキストボックスは文書のどの位置にも

【文書の引用文や注目すべき箇所の要約を入力してください。テキストボックスは文書のどの位置にも

懇親会風景：



報告

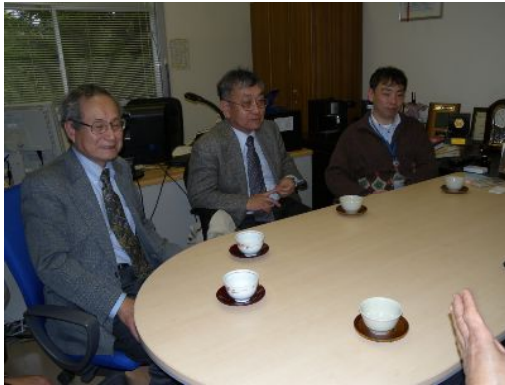
東日本大震災のお見舞い

井下 佳弘

3月11日の大震災から1ヶ月程経過した4月23日、6月総会の事前打合せ会を新横浜の泉社長のウェブ・エレクトロニクス・ジャパン会社の会議室を貸していただき開催した。開催の主旨は総会に向けての討議が主体のはずであったが、未曾有の大震災被災者の救助に10万人の自衛隊派遣、米軍の協力を得た大々的な搜索活動をしている最中であった。一方福島第一原発は冷却注水がたびたびトラブル、原子炉容器が空焚状態となり原子炉が爆発するのではとの危険性をはらんだ時期でもあった。必然的に政府の危機管理能力の無さ、原子力保安委の無知と対応のまずさ、東電の事故対応不備・・・等、が話題となった。当初ある会員より、Mweシニア会より被災者に義捐金を出すべきではないか？もし支援を行うとしたら一般被災者を対象？あるいは東北大学？との議論があった。またある会員からは、既に個人的に義捐金をかなり出しており、会として出す必要は無いのではないかと…喧々諤々の議論の末、まず東北地区の被災したMweシニア会会員の方々のお見舞いをすべきではないかとの議論の一致をみた。

当時はまだ新幹線が仙台までやっと繋がったが、速度を落としての間引き運転の状態であった。また仙台市内もホテルが確保できない状況であった。そこで連休明けの5月11日にいわきの会社アルパインが大きな被害を受けられた被災者でもある堀会長をはじめ、小林先生、北爪さん、柴富さん、と小生の5名で東北の会員の方々のお見舞いに行くこととなった。

東北地区のMweシニア会会員は、高木直教授（東北大学）、アドバンテストの小谷範人氏、前会員の米山務教授（株）エムメックス）、MWE, APMCで大変お世話になった末松憲治教授（東北大学）、野本俊裕教授（東北工業大学）をお見舞いすることとなった。小谷氏は既にアドバンテストを退職されており、震災時は行田にいらっしゃり、御無事であることが確認できました。まず宿泊組の3名のホテル探しから始まった。仙台市内のホテルは長期予約客で何処も満室であった。聞くとところによると、損保関連の方々が長期滞在しているとのことであった。仙台からバスで40分程の中山観音像となりのゴルフ場のホテルに予約ができた。仙台駅で待ち合わせ、まず東北大片平キャンパスの電気通信研究の高木教授と末松教授の研究室を訪問することとなった。片平キャンパスの建物は、外見上大きな被害があるようにみえなかった。高木教授室、末松教授室は2階建で柱の太い比較的古い建物であり、外見的には被害状況はよくわからなかった。しかし廊下には無数の亀裂が走っており、柱の隅の壁やロッカーが傷ついているのが、激しい揺れがあったことを物語っていた。末松教授室で震災



の状況を高木教授と一緒に聞きした。兎に角大きな揺れが長く続いたとのことであった。机上の物が一部床に落ちたり、PC のディスプレイが倒れたりしたが、ロッカー等の高いものは全て天井で固定されており、倒壊はまぬがれたが、柱に接する隅は曲がって扉の開閉に支障をきたしたとのことであった。両教授ともに人的な被害が無くご家族の皆様共々ご無事であったことと研究設備の大きな損害がなかったのは幸いな事でした。大震災から1ヶ月後の余震の方が揺れを大きく感じ、倒壊するのではとの恐怖を感じたとのことでした。片平キャンパスの巨大な研究装置や半導体関連のプロセス装置等の被害はまだはっきりしていないとのことであった。しかし青葉山キャンパスでは電子工学の古い建物は、倒壊を免れたもの入室ができず、研究実験設備が運び出せない状況であるとのことでした。大学当局より復興への試算は建物を除いて700~800億円程かかるのではとのことであった。



場所を仙台朝市の料理屋大黒に移して、米山先生、野本先生を交えて一献傾けながら大震災の状況をお聞きした。米山先生のご自宅は津波で大きな被害を受けた名取市にありました。しかし、幸いなことに津波の被害に遭わなかったとのことでした。ご自宅と海岸との間に高速道路の堰堤があり、この堰堤で津波がさえぎられて自宅は被害にあうことはなかったとのことでした。



現代版万里の長城ともいえる釜石湾の入り口に南北からせり出した防波堤は、全長約2キロ・メートル。地震前は海上に高さ約8メートル、厚さ約20メートルでそびえ、港湾を守っていた。しかし、20mの津波ではどうしようもなかったようだね……。この大津波災害から得た教訓は、大地震の後すぐに高台に避難するしかないですね……。とのことでした。東北新幹線の場合、太平洋岸に地震センサーを張り巡らしており、地震検知後6秒以内に走行中の全車両の減速ブレーキングのシステムが働くとのことであつた。新幹線だけでなく、各沿岸都道府県にも利用できれば、少しは被害が低減できたのではと思えるのだが……。とのことでした。気象庁の警報システムは役立たず？電気、水道、ガス等のインフラも1ヶ月たっても復旧せず、店には何もなく、日常生活に難渋したとのことであつた。ガソリンも無く、車通勤もできず、徒歩か自転車ですら忍の一字であつたとのことのお苦しみ様でした。インフラは電気2週間、水道3週間、ガス4週間が復旧までに要した日数です。この順序と日数は意外と大事だとのアドバイスでした。

落ち：皆様のお元気のお姿をみて安心したのと、美味しいお魚とお酒にすっかり酔いしれて、ホテルでチェックイン。受付嬢が大変申し上げますが大衆風呂は使えませんとのことでした。お部屋のシャワーを使うから問題ないよ……。と返事をしたら、各部屋のお湯も出ておりません……。とのことでした。廊下の絨毯はところどころ捲れ上がり、壁のヒビはガムテープで隠していた。朝食付きとのことレストランに行くと、プラスチックの箱ベンにコップ水でした。一緒に食事している人も、頭に手ぬぐいをまいた作業服姿の土カチンらしき人、あるいは工事業者。震災後2ヶ月といえども未だ震災まっただ中との印象。如何に大きな震災であつたかあらためて現地に来て実感した。

寄稿

ああ～男は哀しい！

（小説：放送無線技術者の哀歌）

青野 義夫

私　さいたま市の荒川近く　地方大学電気工学科四期生　そうです小林禧夫先生　熱烈
激情講師時代の教え子　いや不肖の弟子であります。　が、2年生の頃から　自ら工学セ
ンス皆無である事自覚し　転部退学試みましたが　勇気・決断力なく　ずるずると・・・

いや当時は　かの安田講堂闘争時代　全国学生は狂乱　我らが田舎にも　かの羽仁五郎闘
士来訪　図書館前の演壇で決起煽動大演説・・・突然　大先生の顔面に投石　当たる瞬間
見張っていた事務局学生が　見事キャッチ　事大事に至らず　・・・

我ら　団塊世代　誕生から仲間はウジャウジャ　小学校は2部授業　大学もマスプロ教育
の始まり　とにかく　授業もコチャゴチャガヤガヤ～　でもこちら　集団行動好まず　情
念・情念など　と　恥ずかしき言葉口に出し　右系左系関係なく　大江・三島・埴谷 etc
アナーキー思想・文学に耽溺　上京しては　仲間と新宿で激論のフーテン野郎　・・・　い
やはや　昭和騒乱時代　でありました。しかし　時来たれば　やはりトコロテン卒業・・・
ほとんどの級友も　大学院などの発想なく　親の命令は　早く稼ぎに行け！我　志気なく
気概なく　学力なく　仕方なく・・・ないない尽くして入社試験・・・少々の知能テスト
少々の英語　少々の面接　3分ほど世間話すれば　3日後には合格通知　・・・　今日のご
とき　競争率数10倍　即戦力・折衝力・コミュニケーション力　そら恐ろしい就活必須三
原則など皆無（小林先生：シュウカツなんて知らねえよ　トンカツなら知ってるけど　だ
って！）　今の試験　ペーパーテストは無きに等しく　学生の間人権像　暴き出す地獄訊問
ばかりだそうで　あまりに気の毒～　いやあ～　昔は良かったなあ～　誰でも彼でも　名
だたる大会社即合格　・・・　いやはや　40年前の事でありますよ。

1970年4月　晴れて豪華ホテルで　入社歓迎パーティー
社長殿

＜我が社は　情熱溢れる　若き皆さんを　熱烈歓迎するのであります・・・！＞
と　絢爛バイキングの前で　満面の笑み！　ところが入社後は大違い　研修は狭いひと部
屋のみ　課長・部長・事業部長とやら　会社自慢と人生訓　グループディスカッション・
プレゼンもなく　欠伸・居眠りしてたら　1週間後　即職場だった！

配属は　放送技術部・放送無線装置設計　VHF　からマイクロ波までの　基幹無線回線装置
を扱う　・・・

＜　アオノ君　まずは　IF・130MHz　のAMP　設計だ！＞

＜　IF　って　なんですか？＞

＜　バックヤロ～　自分で調べろ！＞

なんだか知らないが　発振・変調・増幅が一体となっている映像変調器とやら　先輩が手
とり足とりなら　ウレシイが　先輩から出る言葉と言え

＜そんなことも　知らねえのか　・・・！＞

<はあ～！ すんません！>

DG（微分利得）、DP（微分位相）とやらが 変調器出力端 VSWR に関係し 映像の色相を崩すらしい・・・

< IF 出力側の VS(WR) 入ってねえじゃねえか だから次段から反射が多いんだ

matching 弱けりゃ ガンガン AMP して PAD 入れろ 少しは VS が稼げる・・・！>

< いつまで やってるな・・・ 次は 3.5G AMP だ>

< お前 専門は マイクロだろ！>

< そんなこと言ったって やったこと ないっす！>

< 誰だって知らねえよ そこにある CTC (USA 半導体メーカー) のカタログに

Tr の入出力インピーダンス書いてあるだろ～ Smith Chart 動かし まずは

Strip line の matching 設計しろ テフロン基板 厚さ ◎◎mm, $\epsilon = \Delta$

だったら 50Ωline は 幅 何mmだ？>

< ともかく 期限は2ヶ月 実験・設計して 新装置に使うんだ・・・>

毎日毎日カッターで テフロン基板の金属箔 切った貼った ヤ～さん如き Strip line の切り紙細工で 整合調整・・・

《 言うは易し やるは地獄！ 》

初任給 4 万円 マイクロ波 Tr も ほぼ同価格 整合が大幅に崩れると Tr は即臨終 うんともすんとも・・・ そのたびに 先輩から大目玉

<壊れる前に 電源切れ！>

<そんなこと できないっす！ Tr の気持ちなんぞ 分かんんです・・・>

いやはや Tr いくつ壊したか 今でも 白状したくない・・・

実験室 隣課の仲間が 映像放送波用 VHF リニア AMP の実験 最適混変調性能を得る整合実験 ATC 社 chip コンデンサー つま楊子でエミッタ付近 微動微調 ハンダコテ 付けては剥がし 付けては剥がす・・・果てしなき攻防・・・残業時間にもなれば 窓から這いあがる 階下焼肉屋のかほり・・・ ああ 旨そう ～

<腹 減ったなあ ～>

我ら同志互助会

<先輩のアイツ 態度デカくて 頭に来るなあ～>

<テメエで やって見ろって！>

互いに愚痴

★ 結局 彼とは 40 年間放送無線設計だけで 心中することになってしまった！

なんとか設計仕様書らしきものゴマカシ 部品手配 機構設計にも細部指示 基板&收容箱の図面も完成・・・ やっと できたあ～ と ほっと しつつ

<ああ とんでもないところに 入ってしまった！>・・・ と 毎日ため息

8時始業の満員通勤は 6時半家を出て ムショへのお迎え列車 だった・・・！

昼休み 先輩方 食堂から帰れば 机にうつ伏せグッタリ～ 13 時のベルでガバと起床 17 時に再度食堂 夜食の麺類食らって 23 時頃まで残業エンドレス・・・麺類は確か 40

円だった！

<俺 今月 残業 200 時間！> そんな自慢ばかり！

<バッカ ジャねえか・・・>

装置は 72 年札幌オリンピック用の映像伝送マイクロ回線装置だった・・・立会い検査まで残り 1 週間 課長は顔面蒼白 こっちダメ あっちダメ もちろんアオノ設計 試験したらまったく動作せず！現場の仕事師が みずから 我が Strip line ズタズタにして 即席設計でっちあげた・・・

<お前 それでも大卒かぁ～ よくそれで 設計なんかに 居られるなぁ～！>

★ 大卒という印籠は まだ価値があった時代なんです

検査まで残り 3 日 でも懸案事項 数 10 項目 送受対向映像音声性能はもちろん アース周り不安定 スプリアス多大 マイクロ出力は温特でダウン 制御はバグだらけ 電源も時に突然垂下・・・こっちは ただ つっ立ってオロオロ・・・心配してるフリしても どうすることも I can not ！

課長は胃潰瘍 毎日薬飲み 時に病院通い 部長にへこへこ苦渋の報告・・・でも時間は容赦なくやってきた・・・ 立会い検査当日 うやうやしく お客様を応接に迎え

<完璧ではないかもしれませんが ご満足いただけたと思います！>

とかなんとか まずはニコヤカに表向き発言・・・ 赤絨毯こそなかったけど 黄門さまご一行 試験現場へ・・・検査は終日 いや深夜まで～ 結局 再検討項目記載議事録 真っ赤か！

出荷は 5 日後 札幌まで空輸 即現場工事・・・モチロン こっちは何もできないお坊ちゃんゆえ コマ使いのみ

<秋葉に行け あれ買って来い・・・>

<外注から あれ貰って来い・・・>

期限 待ったなし・・・ そら恐ろしい殺気が充満・・・ いや大震災で 工場ごとぶっ飛ばばいいとも 思った！

70 年代は すでに固体化半導体時代（固体化という言葉も奇妙で なんかシックリしなかった）だが 60 年代前後は もっと凄まじい検査だったとか！ 何をやっても世界初？ 真空管周り 文字通り手巻きコイル・電解コン・抵抗 配線 みな空中戦・・・お客様検査も 宿泊前提 ご来訪だったという。 放送局&メーカー 帝大卒エンジニアが頭付き合わせ 簡易な信号発生器とテスター程度の測定器 ああでもないこうでもない・・・電気通信原論の名著を脇に置き 激論バトルで性能取得・・・

疲れきって 昼間の検査終われば 営業は しかるべき隠れ家にお客様ご案内 お姐さん方ご参集 徳利数 10 本ひっくり返し 野球拳やら ドンチャカ騒ぎ 翌朝は悪臭撒き散らし 第 2 戦目 ～ 終われば 次は当時全盛だったキャバレー ビッグバンドに合わせて チークダンスが楽しみだった・・・とか 先輩から秘かに聞いた・・・明治生まれの我が親父も電気会社だったけど 外注接待は日々 いつもタダ酒 クリスマスにはかなら

ず トンガリ帽子とクラッカーがお土産で深夜帰宅・・・それだけは忘れもしない・・・
ケーキなんか 食ったかな？

ところで 先の札幌マイクロ回線工事継続中 出勤したら

＜アオノ君 スペアナ持って すぐ飛んでくれ！＞

と 課長からご下命！ワイシャツ1枚でスペアナぶらさげ羽田へ初めて行った。 727 に乗った！ もち飛行機は初体験 スチュアーデス嬢と 目が合うのもドキドキ うつむきつつ狭い座席にスペアナ持込 最尾席

＜これなんですか？＞ 可愛い カノジョから質問

＜オリンピックの放送装置測定に 使うんです！＞

＜素晴らしい お仕事ですねえ～＞

なんだか 得意だった！

初めての飛行機 窓からキョロキョロ 田舎者・・・工事専門部隊に加えて 設計先輩方次々現場入り 手稲山⇄札幌市内放送局往復 現場奔走・・・ついには我が部長（北大出身）も到着・・・徹夜徹夜で対向試験 こっちは眠くて眠くて 訳わからぬ測定中なんども 頭ど突かれた・・・いやはや 大工事でありました・・・それでもなんとかマイクロ回線完成で 笠谷ほか 金銀銅 独占 《日の丸飛行隊》 を世界に発信できたのだから よおごさんした ～

それから 20 年後 当時のお客様 担当技師と お会いしたとき

＜あんときはあんた方をよく世話したなあ～ 俺の銅像でも作ってもらいたかったよ！＞

私自身 すでに 20 代後半 我ひとり 9 時間近く列車に乗り 青森放送局まで現地調査出張もさせられ なんとか 少しずつ前進していたのかも知れぬが・・・これが

《 男子 一生の仕事 》 と 我には思えず

《 教員の方が 俺には向いてる 》

と 思い直しこっそり夜学通いで

免許取得得たものの・・・ 同時に

小林研究室に出向いては

＜もうダメです・・・！＞

＜去るも地獄 残るも地獄です！＞

と 愚痴ばかり・・・そのたびに 先生もため息・・・ところが やることもやっけていて 本来肉食系は 華燭の典となり ついにドン詰りの 29 歳・・・もう逃げられなかった！

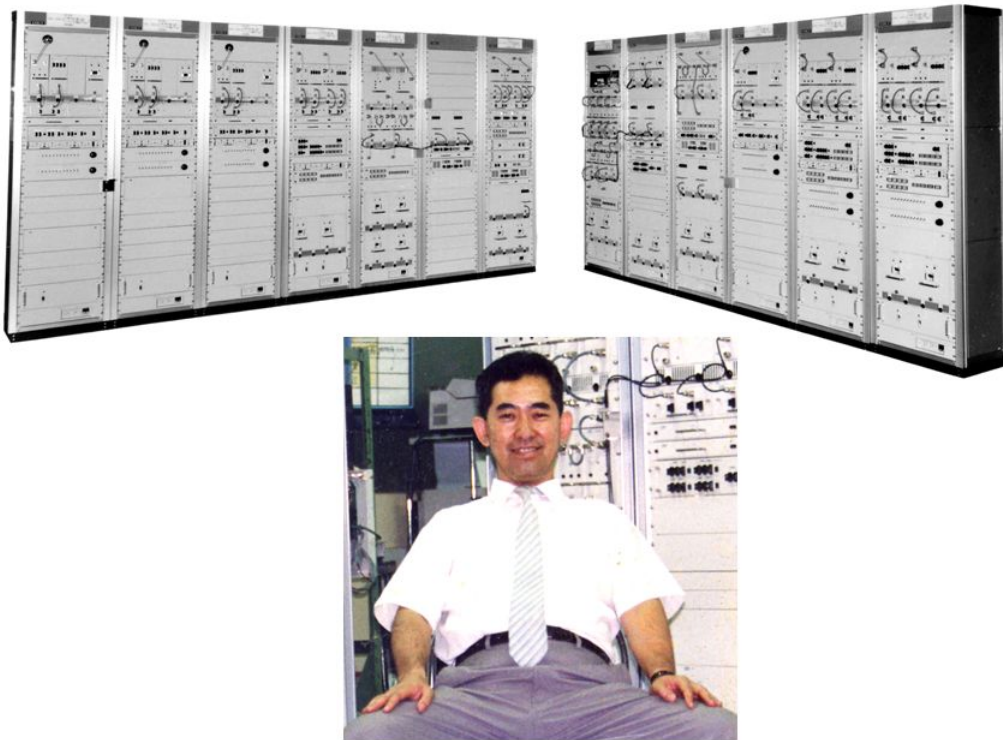
その直後 岩手県全域の ラジオ基幹無線回線ネットワーク （10 ヶ所以上中継）

＜お前が まとめろ！＞と また課長からご下命！盛岡基点に 県内山頂中継所経て 三陸沿岸・久慈～宮古～釜石～大船渡～気仙



現場測定点検

多段中継ラジオ無線回線装置



多段中継ラジオ無線回線装置と筆者

沼が末端ラジオ放送所 今回の大震災地区横断・縦断の現地調査は 5 月 カスタム仕様設計は 7 月まで 工事は 確か 12 月 1 週間 だったか . . . !

その昔 おなじ程度のヴォリュームでも工事は 1 ヶ月以上 2 号ラックという鉄の固まりデカイ筆筒が如き 扉付き装置収納箱 それはそれは 堅固で重たい 搬入も大仕事で人夫さんも多数だったろう . . . 営業も札束抱えて参加 慰労対象者は お客さんに加えて多数 だから 連夜ドンチャカ騒ぎの祭り だったらしい . . .

＜確か 15 年位前でしたか 同じ工事がありましたよね

あの時も うちのタクシー利用していただき 豪遊も あったようすなあ～＞
宮古の運ちゃんは 我を月山（宮古湾に聳える中継局）まで運ぶ途中懐古してくれた . . .

時移りて 我はその装置更新に 全力投球したというわけ . . . 工事仲間を中継局ごとに散らばって配置させ陣頭指揮 トラック搬入から 盛岡基点の全回線通し総合測定までなんとか無事完了！ 完成式は 熨斗紙付き一升瓶並べた 放送局内会議室 裂き烏賊・煎餅かじり 茶碗酒 あおって 三本締めで ご苦労さん でやした！

思い起こせば 5 月の現地調査初日 盛岡で盲腸入院 10 日間のオマケもあったけど 釜石箱根峠 夕闇に走る賢治の銀河鉄道哀愁列車も堪能 . . . 最後に 放送局 総監督から

＜アオノ 良く 頑張った！＞ とお褒めの言葉 ★数年後 その恩師癌で他界

＜俺って やれるのかな！＞ の錯覚 . . .

人生 錯覚も大事 . . .

30 歳過ぎてやっと人並み 仕事山積 お客様打ち合わせ 開発設計 製造支援 現場監督・・・40 歳過ぎまで 楽しく充実・・・地方山奥での温泉美味三昧も 役得ご利益だった！

小学生の長男連れて 親子山岳クラブ入部 山中駆け周り 甲信越のアルプス行脚は
＜ワンパクでもいい なんとか～の 子育て・・・＞
文字通りマルダイハム宣伝そのままに 仕事も遊びも肉食系の若さで充満していた・・・

ところが やっぱり 時代の変化は 始っていた・・・ 災難は忘れたころに・・・

突然 上司に呼び付けられ

＜お前の仕事の 原価率は どうなってる？＞

＜毎年 たかが 10 億～20 億の売り上げで どおする？＞

＜3 年後には 50 億と約束しろ！＞

＜出来ねば 人はやらねえ～！＞

＜新仕事は 何でもある 映像・音声応用市場 衛星・・・＞

＜そんなこと 言ったって！＞

・・・しかし 上司には 絶対服従 それ以後 人材入らず 優秀同僚は他部に引き抜かれ 諸行無常を身体で感知 指咥えていた。リニア AMP で苦闘していた隣の課と合体され スタジオ音声機器・映像方式変換装置 (NTSC・PAL・SECAM) 扱う課は仕事完了 空中分解 かつての上司はすでに霧散 気付けば 放送技術部の名称もなく 古参兵数人の放送無線部隊のみが 敗戦処理で残された・・・

社内駆け巡り 平身低頭祈願懇願 人よこせアピール

＜どこも同じ 要は売り上げよ・・・倍倍ビジョンのない事業は消えていくのみよ！＞

＜そんな ムチャな！＞

・・・ 結局 釣った魚は 製造部からの中堅数人のみ

こんな狭い日本で 大企業ヒシメキ 機種を分担 需要総数は決まっている だから
それは もうガチガチの放送事業 他者のシェアなんか 奪えない・・・ああそれなのに
営業は

＜売り上げ なけりゃ しょうがねえだろ！＞

＜半値八掛五割引 で取るって来るから お前らは 徹底的に原価を下げろ！＞

＜外注を絞り切れ 乾いた雑巾でも 零一滴だ！＞

ある時 ふたまわり近い先輩の外注社長 銀座で我接待の後 往来で憚らず完全土下座

＜もうイジメないで下さいよ 頑張りますから！＞

でも資材部の 締め上げは ヤクザ仕事

＜外注は ガンガン絞る 俺らが生きるには・・・＞

そもそも製造業の原価計算ほど 単純なことはない。

売価は市場に依って決められる　こちらが幾らで売りたいと言っても　それはタワゴト。
市場とは　入札も含め　安価なものほど　勝ちに近い。

（時に安価だけでなく　もちろん内容も勘案されるが　・・・）

ゆえに　変動原価（部材費　直接人件費　etc）＋一般固定費＋ α が　原価となり　売価との差が　いわゆる　モウケになる　・・・

変動原価＋固定費（人件費など）＋モウケ　を　勝手に先に計算して　売値を決めて
これで買え　という　電力などの　独占企業とは　根本的に異なる。

インフラ会社は　ほとんど独占に近いから　この原価構造に　似たり依ったり　・・・
競争がある場合でも　相手は数社のみ　・・・　互いの連携はガッチリ！？

一般企業でモウケを増やすには　売価低下に並行し　変動原価を低減するしか方策がない
しかし工夫に工夫の減価設計でも限度あり　最後は部材調達先　外注さん　袋叩きで
泣いてもらいましょう・・・が常道・・・自動車会社も　同じ構造　叩き上手が辣腕経営
者となる！

ゆえに　製造業は　原価低減に限度あるゆえ　永遠にモウケも少なく　待遇が悪いとい
こと　（もちろんジャンルに依って　多少の差はある・・・）

民間製造会社で　世界シェア　80%なる会社もあるらしいが　それは極めてマレという事。
ゆえに　世界1～2位以外の製品は退散しろ！　には　極めて明快な論理がある。

公僕さん（今や死語）は　黙っていても税金という収入あり　それを年度内に使い切って
しまう　という論理が　明治以来本邦の王道　ゆえに　2～3月期には　道路工事ほかで
ジャンスカ　予算使い尽くして　ハイそれまでよ！　・・・　次年度に廻すなんて考えは
できないシステム・・・出費が少なけりゃ来年度予算は減額・・・　なんせ黙っていても
降ってくる他人の金だし　・・・　少なけりゃ　勝手に税金上げればいい！

民間会社でも　正体不明の組織体は　いくらでもあって　金融業は　なんか　うさん臭
い！　シモジモには　皆目不明の利益構造～　処遇も公にされない　その昔　証券会社は
オネエチャンでさえ　ボーナスの札束は縦に立ったという噂あり　けっして父ちゃんに言
うなど　会社から箝口令が出た　というのもまんざら嘘でないらしい　・・・　我が妹は
地方銀行勤務だったが　当時　金歯を社内歯医者で　無料治療だったと打ち明けた　・・・
今も　あるのかしら？

どこの巨大金融業も　巨大ビル　・・・　数年前　保険料不払いで　大会社のエライさん
雁首そろえて勢揃い　頭下げて陳謝　陳謝　・・・　あれで　すべてが解決したと　思い
まっか？　保険会社の年収知らんでしょ？何か臭いと　思うのは　誰でも同じだと　思い
ますけど～

とにかく　技術屋は　何も知らないオボッチャン連合

＜ただ　ものづくりが　好きだから＞　・・・　が決まり言葉

文系連中の思うツボ　＜バカな奴らに　やらせておけば　・・・＞と思ってるのでありま
す！　この話は　とりあえず　ここまで　・・・　ちょっと口が滑って　ヤバイ！

元に戻って 我らが本業 製造業のこと ～

入社時 5 人がかりでやっていた 1 案件業務 いつの間にか 1 人で 10 案件／年にもなり
すれば 仕事貫徹&原価低減のために 徹底的に外注化 装置全体は全て箱・ブロック・
パネルに分け デカイ塊 専門各社に発注 中身詳細なんぞ知る必要も 知識もなく
入出の定格性能決めるだけ 入荷したデカイブツを 接続し 電源入れ 映像・音声のベ
ースバンド 入力すればマイクロ波が出て完了 そして送受信装置対向させれば ハイ
いっちょ あがり・・・でも これって 設計？ 商社じゃないの？
技術力低下&墮落は 日々実感 かの入社時 VS 苦悶で 奔走したのは 何だったのか？

いや 現在のあらゆる電気仕掛装置は システム LSI&ソフトで出来て 回路図は 純白
箱がいくつも 並ぶのみ・・・箱の四辺には 数 10 の接続 No が書いてあり 隣箱の
No と直線で結ばれている 誰が見ても 子供の箱いたずら書き・・・ LCR なんぞ皆無
であります！

その昔<回路図を読む>なんて言葉があった！

<おめえは 図面さえ読めねえのか？各部の LCR の役割りも知らねえで 技術屋か！>

放送局でも 現場のヴェテランは メーカーが修理に駆けつける前 自ら箱空けて 回路
図読み 部品いじくりまわし <もう修理終わったよ！>なんて得意だった！ 今や
お客さんどころか メーカーも 現場で 修理なんぞまったく出来ない製品が多い。

<なんか この箱が 臭い？> <この箱 全交換しろ！> ただそれだけ・・・！
もう 人間を含めて 全交換時代なんです！！！

《 ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず よどみに浮かぶ
うたかたは かつ消え かつ結びて 久しくとどまりたるためしなし 》

90 年代から 仕事は すべて 金金金・・・採算合わねば ヤメロの大合唱・・・

<集中 と 選択> <Scrap & Build>

流行語は合い言葉 顔合わせれば 仲間どおしく俺らの 仕事 選択されるらしいぜ！>
Scrap になった 本人が発する言葉だからなおさら滑稽 会社全体の業績も悪化の一途
管理職は 毎年減給 なのに インフラ系 発注側は相変わらず 高給ウワサ

《 カゴに乗る人 担ぐ人 そのまたワラジを 作る人 》

・・・ と よく かあちゃんが言っていたなあ ～

本邦では 永遠に 《 発注側はエライ人 作る人は奴隷 》

ああ やっぱメーカーなんか 来るんじゃなかったあ～！

でも もう ハタチには戻れぬ・・・それでも自社機種 精一杯の市場占有率で
売り上げ 15 億は確保・・・なのに 原価率が悪いと 横槍

<中国へ持っていけ いや タイの方が原価は 安いぞ・・・>

<バカ言うな 日本市場の大事なお客様に 海外生産品など出せるか

障害時どうするんだ 放送インフラは 20 年も使うのだ・・・>

当時の上司に 後年 同窓懇親会で歓談した！

＜昔 胃潰瘍にまでなって 仕事してましたが あれって装置が うまくいかなかったから だけだったんですか？ 立会い検査の前は かならず徹夜してましたよねえ～＞
＜そうだよ 心配は性能だけ・・・原価率なんて心配無用 とにかく いっぱい貰っていたんだ・・・だから 接待費なんぞ 屁みたいな もんだったんだ・・・ここだけの話 だけどさ！＞

ところが こちら 管理職になってから 勿論 性能が出ない辛さはあったけど 上司が口開けば 原価率下げろの捨てセリフは 拷問以外のなんでもなかった！

もう 疲れ切っていた どうでも良かった

＜机ひっくり返して 退職するか・・・ 定年には まだあるけれど
会社の この先なんか 知ったことあるか！＞

毎日毎日 いつか来た道 暗黒電車 またまたムショ通勤 憂鬱な朝が つづいた！

いやあ～ でも 天のお恵みって やっぱあった！！

最初の 検討委員会が開始されたのは 90 年前後だったろうか ～

《 地上デジタル放送 検討開始だってさ・・・！》

《 退散の言い訳になるぞお～ 》

各種検討委員会は 2000 年頃まで 確か 10 年近く続いた・・・でも 委員会がどうであろうと 現実には 少しも変化しなかった！

人無し 金無し もう出来っこない なんせ脳細胞欠落だかんね・・・でも 癪にさわるなあ～ ＜最後のご奉仕 管理職だけで やれることだけは やるか・・・！＞

1998 年だったか・・・いつか来た道 再度 平身低頭社内営業・・・こっちの課長あっちの部長あさつての事業部長に 懇願敬礼泣き泣き戦術・・・ やっと功を奏し・・・にわか精鋭部隊は その道のエキスパート

我アナログ人間部隊長 ◎理論解析は先輩部長 ◎装置システム設計は後輩課長

◎具体ハード設計も別の後輩課長・・・ 部下なし たった 4 人の 玉砕突撃隊が編成された！

《 OFDM-IF 信号を そのまま周波数変換して送信する 究極のマイクロ波無線装置 》
開発 《 位相雑音低減方式の特許発案 》 試作につづく 試作・・・

メーカーコンテストでもあった 全国 10 ヶ所 地デジシステム実験開始・・・

なな なんと 大企業の下請けで 納入した 我らが試作機は 当時としては バツグン性能・・・

＜どんなもんだい 文句あつか！ やる事やったぜ！＞

それでも

<ああ これで お仕舞いよお〜>

地デジシステムは マイクロ装置だけでなし UHF 放送波中継装置（本邦名称サテライト装置）も 2011 年 7 月 24 日に向けて 煎餅造るように大量生産設計せねばならない。いや地デジだけでない 従来のラジオ関係装置 FM 用サテライト装置 中波送信機もある・・・

もう完全お手上げ 将来ビジョン皆無 ハイそれまでよ・・・もう奥の手は 皆無だった！

全国数 100 ヶ所で稼動していた我が社機器 その保守は どおする お客さんには迷惑かけられぬ ARIB 他 各種委員会にも出ていたけど 我 定年待ったなし！

《 地デジは 血デジ 》

<放送なんかと 心中はできねえ〜ほどほどで 逃亡しないと 命にかかわる〜>
会社は その頃になって 他人ごとのように

<地デジで売り上げ 数倍上げろ！>

<今頃になって なにヌカス！ 人がいねえよ！>

・・・ それでも我 生来真面目 毎日毎日深謀遠慮 ・・・ お膳ひっくりかえす夢も見たけど それは簡単 昔オヤジが よくやってた ・・・ 今さらヤボ ・・・

ああそうだ！ <腐っても鯛> 我が老舗会社には 先輩からエイエイと引き継いだ この仕事・顧客がある これに飛びつくメーカーがきっとある ・・・ 思案に思案 毎晩夢の中でも秘策を練っていた ・・・ 決まった！ あそこだ！ 都心にある 巨大本社に 単身突入 ・・・

<たのもうお 〜 実は・・・ダメなんです うち ダメなんです

もう地デジなんか 出来ないんです！ 私と仕事を買ってくださいませ！>
いや真剣勝負だった かのデカいビルの大会社が買ってくれるなんてあり得ない でもダメ元 ・・・ 心底は 疑念懷疑に 放擲心境 ・・・ ところがところが世間は捨てたもんじゃない <地獄に仏> は 俺のためにあった ・・・
かの社 曰く

<前向きに 検討しましょう ・・・ >

まさに 《晴天の霹靂》・・・ むずかしい漢字ですなあ〜 俺の発想は間違ってた・・・
すでに 53 歳 定年 3 年前だった・・・

54 歳の 4 月 《 晴れて大企業へ天上がり 》 営業・サービスを含め 仲間 10 人以上 天井人になれたのだった ・・・ 50 歳以上が 4 人もいる ロートル集団

ゆえに先方への引き継ぎは 待ったなし しかし問題も山積！ かの < OFDM 直接伝送 マイクロ波無線装置>を含めて 一応老舗会社の持参メニューは多機種 ・・・ちょうど各社が 地デジトータルシステムを放送局に売り込む時期だった。

かの大企業は自社で不足していた 機種・顧客を買収 (M&A) で取り込む ことになってみごと <TOTAL SYSTEM> 完成！ 文句あつか！

大展示会の謳い文句 文字通り 《 Total Solution 》！

なんでもかんでも やりませ！ KARA にも AKB にも劣らず可愛い説明嬢 声高く 連呼連呼が会場を轟かせた！ もち ミニスカートで悩殺も！・・・ 数10年も通ったドブネズミのスーツ姿が タキシードにも見え 技術説明員としての幕張会場は 我がサラリーマン生活最高の 晴れ舞台だった・・・

でも 2年間は一瞬 56歳は かの社でも定年だった。 引き継ぎは ほぼ完了！
あとは 優秀な かの社の 後輩陣が 頑張るのみ・・・

もう関わりたくなかった もう外野見物だけで充分だった。

メーカーは コリゴリだった 無能力だし好きでもなかったし

違った場所でも 余生はきっとある それが脳髄をよぎった。

いや時に 母親が生死の境にいた こっちにも最後の奉仕が残っていた きっぱり退職決断 もちろん薄くなった後ろ髪でも 少しは引かれた 仲間を残すのだし・・・

いや職のアテもなかった・・・でも俺は俺・

・・・3ヶ月看病に専念した 国民健康保険にも入った。 ところが幸いにも 母は回復して しばらく命の危険は 無くなった・・・



八ヶ岳（赤岳）頂上への 途中で

時おなじく 放送局の関連会社からお誘いがあった 即承諾してしまった！ 放送が嫌いなのに 能力もないのに・・・メーカーではなく 工事会社だったからか？

仕事再開すれば 気分はルンルン 30代 40代 駆け巡った懐かしい全国の山ん中 またまた調査・ハード発注・工事監督・・・ 風光明媚温泉三昧名物暴食吟醸堪能・・・

放送はいいなあ～ 人間って 実にゲンキン 欲望は限りなし！

でもでも またまた・・・ 災難は忘れたころにやって来た・・・

母は 90歳で大往生 25年間の介護生活も完了・・・なぜか涙も出なく 任務全うした気分は清涼でさえあった・・・それから 3ヶ月も過ぎない 9月下旬 久しぶり八ヶ岳単独登山（赤岳・2899m 他）もう 10回近く 子供と仲間と ずいぶん行った・・・でも始めてのルートに行きたかった・・・なぜか気が逸っていた・・・渓谷に迷い込んだのも分からなかった ある瞬間 高さ約 5m 頭から岩盤にまっ逆さま・・・額はパッキリ 鮮血飛散 同時に両手足完全麻痺 まったく動かず 即死せず意識はあったけど・・・<お母ちゃんが まだ来ちゃダメ！> と 救ったんだよ と他人様は言ってくれた・・・ヘリコプターで吊られ 病院緊急搬送 当日頸椎切開手術 そして辛いリハビリ 約 3ヶ月 滞在した佐久総合病院は 故郷になった 千曲川源流が病室窓下にあった 河原に出て眼前の浅間眺め・・・ 手稲山と スペアナと 727を 思いだしていた・・・

我が事故のあと 3年 かのマイクロ装置開発 にわか精鋭部隊の仲間 先輩 1人 後輩 2

人 なぜか次々と 他界してしまった・・・今 我ひとり残され 身体障害者三級でも
神様は生かしてくれた・・・

後輩たちが心配 昔世話になった協力会社の方々も心配 メール交信は続いている
くもう完全にダメですよ！ 日本の電気製造業は・・・ 韓国 中国 台湾 ほか
価格でまったく勝てません 昨年も減給 ボーナスもありませんでした！>
くそう言うなよ ガンバレよ！>

64 歳オヤジの慰めは 虚しい・・・ 敵前逃亡したのだし・・・

日々 リハビリのためプールに通っている。オバチャン陣は元気元気 総勢数 10 人が
水中エアロで踊りまくってる あきらかに大先輩 70 歳位か でも バタフライやって
る！ スゴイ！前畑ガンバレのおばちゃんか いや 煙草屋のおばちゃんかも？あのトウ
チャンは 今どこで 何してるのか？ 元事業部長かも 友も去り 酒食らって 不貞寝
してるのか？

ランチに 文化講座に コミュニティセンター同好会に 日中はどこもかしこも 女性陣
で溢れ返ってる。社交ダンスも オバチャンどおし お手手つないで チイパッパ！・・・
子供預けた若奥さんもいる！ 時代は 完全に変わった！
・・・うちの母あちゃん 旅行どころか ランチなんかしたこと あっただろうか？？？

今 素浪人となり 自転車で世間見学をして周ると 知らなかった世界で充満してる・・・
こういう カノジョらのために 数 10 年間 夜を徹して働いてきたんだなあ ～ とも
思った！

夜明け出勤 深夜帰宅の モグラ男達は 何も知らない・・・

10 時～16 時 どういう人種が どこで何をしているのか・・・ を

引退した男どもは プール片隅で ほんの数人 力なくパチャパチャ なんとなく音も淋
しい・・・みんな孤独 無口 あの人は 学者か 支店長か・・・
いや マイクロ やった人かな・・・？
これからまだ 次のお声 次のお座敷 待ってるんだろうか・・・？

こんどは 女性に生まれたい！

ああ 男は 哀しい！

(2011. 7)



寄稿

ハノイ探検記

高松 秀男

はじめに

2009年の9月末に予ねてより是非行きたかったベトナムの首都ハノイと、陶器の村で有名なバッチャン、それに龍が舞い降りたという伝説のあるハロン湾を旅行しました。旅行会社 HIS を利用し家内と4泊5日の旅です。前評判では、ハノイはフランス文化の残る小奇麗な都市で、街のあちこちにプチレストランや土産物屋があり、そぞろ歩きをしながら粋なセンスのカフェに立ち寄り、アジアングッズのショッピングをのんびりと楽しめそうなプチパリの街のイメージでした。確かに一部は全くその通りなのですが、現実には、もっともっとアジアンエネルギーに満ち溢れた「商魂逞しい街」でした。

私の旅のスタイルは一都市集中型です。つまり世界の何処に行こうが、旅先で興味のある都市・場所を、時間の許す限り自分の足で出来るだけくまなく歩き回り(勿論、タクシーも使いますが)、現地の街の雰囲気・生活を自分の肌で感じる・・・ということを大切にしています。そのために事前に地図を勉強し、コピーし、折り畳んで携帯します。外出時は重たいガイドブックは持ち歩かず、ホテルに置いていきます。治安の悪い所でガイドブックを開帳していると如何にも旅行者丸出しで狙われることもあり、それを防ぐ意味もあります。何時しか、そのような旅スタイルが身につきました。ホテルに帰り、一日の記憶を辿り、その日探検した通り地図上に線を引くことで、不思議と征服感というか満足感が得られるのです。ホテルで改めてガイドブック説明を読み直すと、意外な発見もあります。そうしながら明日の大まかな予定を立てる。これが兎に角面白いのですが、その反面気も疲れるということも事実です。

今回はアジアということで、欧米旅行と比べると幾分気を抜けるぞ・・・というメリットを予感していました。以下には、出来るだけ現地写真を沢山使って、ベトナムの首都「ハノイ」のエネルギーをお伝えしたいと思います。

ハノイ市内風景——何だ、これは！？

先ず典型的なハノイの市内風景をお見せしましょう(図1)。市内は、兎に角、バイク、バイク、バイク、それに車の海なのです。ドッドドーという低音のエンジン音。プップーという高音のクラクションが絶えず鳴り響くのですが、その意味は「自分はここにいる。気を付けろ。」ということを相手のバイク、車に教えるために鳴らすのだそうです。

加えて排気ガスの洪水。ですからバイク搭乗者は皆マスクをしています。色が緑、ピンクと色とりどりのマスクが特徴です。それに困ったことには、殆どと言って良いほど横断歩道の信号がありません。東京駅に相当するハノイ駅の正面だって信号が無いのです。従って、道を渡るときは頃合を見て、そろりそろりと、決して立ち止まらずに横断するしか無いのです。実は、この「立ち止まらず・・・」という所がミソです。もし車道で立ち止まるとバイクに追突されてしまうからです。歩行者がそろりそろりと歩き出すと、バイクや車が歩行者に合わせて少しづつ進路変更や速度を落としてくれるのです。何ともアナログ的でアジアチックな世界ではありませんか。



図1 ハノイ市内風景(特別なイベントがある訳ではないのにバイクだらけ)

図2は大まかなハノイ市外です。宿泊したホテルは右下のヒルトン・ハノイ・オペラ。ここを拠点にして、初めてのハノイ市内探検を試みました。近くにはハノイ最古の老舗ホテル、ソフィテル・メトロポールもあります。ヒルトンの朝食(ビュフェ形式)は素晴らしく、新鮮な現地新鮮野菜、フルーツジュースや、ベトナムフォーも安心して食することが出来ました。ここでエネルギーを十分チャージしてから市内探検という訳です。アクセス性ですが、例えばホアンキエム湖畔までは徒歩で約5分と旧市街へのアクセスも良く、またタクシーを利用すれば北のドンスアン市場まで約3ドル(約10分)で行ける利便性もあります。

市内を歩き疲れた時は、近場のホテルやカフェで気軽に喫茶休息すると良いでしょう。ホアンキエム湖の西側にあるプチホテルではエスプレッソが2ドルでした。ドル紙幣払が可能。そこはエアコンが効き、文明に守られた快適な休息スペースがあります(図2参照下さい)。



図2 ハノイ市内

現地通貨の換算とタクシー利用

通貨はベトナムドン(VND)です。両替レートは10,000VND が約50円でした。この換算は絶えず頭の痛いものでした。というのは、VND のゼロの桁数がやたら多いので間違え易く、VND に端数が出ると、更に換算が面倒だからです。物価の違いもあります(日本の約1/10から1/5位でしょうね)。コツは、提示値段が1万ドンの何倍かだけを気にして、下記の公式で変換すれば大体OKです。それ以下の桁のVNDは見なかったことにしても全くOKです。だって1,000VNDなんて5円ですからね・・・無視していいのです。

公式: 10,000VND=50円 (2009年9月)

経験的に、参考になったことをお教えします。タクシーに乗る時は事前に10,000 VND 紙幣を10枚ぐらい用意しておくことです(ホテルで両替可能、手数料不要)。というのもハノイ市内なら南北距離(約3km)を走っても精々200~300円程度(=1万ドンで5~6枚)だからです。流しは「ボッタくられるらしい」のでやめて、ホテルに居るメータ付のタクシーを利用しました。料金の端数は切り上げて渡すことで大丈夫でした。なお、タクシー運ちゃんに支払いをする時は、VNDの不足分を米ドルで渡そうとすると相手が混乱するので止めた方が無難です。20,000VND=約1ドルが中々理解して貰えなく、多めに要求されたり、解決に時間がかかります。料金はVNDに統一して渡すことが良いのです。

ハノイ大劇場



図3 夕日に映えるハノイ大劇場
この右隣がヒルトンホテルだ。



図4 ヒルトン・ハノイ・オペラ

1911年にパリのオペラ座を模して作られた劇場。今回宿泊したヒルトンホテルの直ぐ隣にある。色は薄い黄色。一般的に、ハノイ市内で薄黄色の建物は、フランス統治時代のものだ。また大劇場以上の高さの新規建物は、ハノイでは建築許可が出ないとも聞く。

道には車線が引いていないのもアジア的だ。一度、天秤を担いだ豪傑お婆さんが、ハノイ大劇場の前の幅が何と50mもある、かなり広くて車の往来も激しい十字路を脇目も触れず悠々と横断していました。お婆さんはここハノイでも元気です。外国人は、最初、中々出来るものではありません。でも出来ないのは外国人だけかと思っていたら、いやいや、現地でも、「田舎から大都市ハノイに出て来た人は中々渡れないんだよ」と聞き、何故か安堵。

ハノイ大教会



図5 歴史を感じさせるハノイ大教会
この通りの左右にプチ雑貨店や
レストランが多数ある。

パリのノートルダム寺院を10分の1位に小振りにした感じの教会。最初、夕暮れに見た姿はライトアップされてなんとも郷愁を誘い綺麗で感動したのですが、翌日、昼間に行ったときは(壁面に黒かびが生えていて)やや古ボッチイ感じでした。

ハノイ大教会の付近の通りには、土産物雑貨屋、洋服店、ハンドバックの店等を始め、気取らなくて手ごろな価格のプチレストラン、リラクゼーション(マッサージ)の店が多数ありますので、是非、お勧めです。私もハノイ初日に、この通りの右にある庶民的な店で夕食をトライした。

逞しい売り子



図6 風船売り子
買う人が何人いるのだろうか？

本当に「たくましい根性」の一言だ。交差点で、お姉さん(右下)がハローキティと蛙の風船を売っているのだ。その前方を走り抜けるオートバイ達。良く見ると、その中を此方目掛けて渡って来る男性(写真中央)も見える。そろりそろりと歩いて道を渡って来るのだ。

この売り子の根性たるや！中々やるな・・・と言いたい。場所はホアンキエム湖の北側。

陶磁器の村バッチャンに行く



図7 絵付け工房
ベトナム人は手先が器用。

ツアーを利用して、陶器の製作・販売で有名な村バッチャンに行く。総勢約20名。ハノイ市内からバスで約40分（自分でバスでも行ける模様。調べたらバス代は何と3,000VND=15円と格安だった。）

お店で絵付け(図7)と白い上薬を塗っている作業場(図8)を見学した。勿論、店内で製品も売っている。日本の観光客と見るや、やや吹っかけられる。



図8 上薬の作業場
ちょっと埃っぽい現場。ベトナム人は、どうも、このような小さい椅子に座るのが好きらしい。

この観光客用の店を出たら、外で待ち構えていた雑貨の売り子に捕まる。「千円でどう？」と日本語で言われ、竹細工の扇子3-4つとブレスレット5-6個を差し出された。「うーん・・・」土産になるかも知れないが特に欲しい訳でもないなあ・・・と迷っていると、「ブレスレットは幾つでも付けてあげる。あなた幾つ欲しいの!？」という感じでズバツ!と押してくる。細身のおばさんだった。中々手強い!負けそうだ。

幾らかのやり取りの後、引くに引けず、ブレスレットの数を10個位に増やしたのがやっとで、とうとう買わされてしまった(涙)。オバサン恐るべし。



図9 バッチャン焼きはブランド品

ハノイ市内からハロン湾に向かう

ハノイ市内からバスで片道約3時間かかる。高速道路が無いので一般道をひたすら行く。結構長旅だ。そのため途中1回の休憩がセットされていて、土産物屋に連れて行かれ、トイレ休憩も出来る。難点はバスの運転がひやひや物だったことだ。中央分離線の引いていない右側通行の一般道を、クラクションを鳴らしながら、前方の遅いトラックやバスを左側から追い抜くのだ。このときのクラクションは「抜くぞ！」の挨拶。すると当然ながら前方から別のトラックが来る。そのままだと衝突するので、今度は「退け！！」とばかりに対向車に向けて強烈なクラクション。20m位までの接近戦もある。唯一救われるのは、追い越しされる車が「そうはさせじ・・・」と頑張らないことだった(笑)。お陰で追い越しの度に、自分の足で自然にブレーキを踏んでいた。こうした運転は見るだけで本当に疲れる。

ハロン湾クルーズに参加して



図10 ハロン湾風景



図11 海賊船のようなクルーズ船に乗る。洞窟探検付き。

ハロンとは「下龍」と書き「龍が舞い下りた」という伝説に基づく。大小の島が1900個もある(図10)。海賊船のような遊覧船(図11)に乗り島の間をクルーズした。9月の日差しは強くジリジリと焼ける感じた。

改めて歴史を振り返るとベトナムは

- ① モンゴル(1258年,1284年,1287年と3回ともベトナム軍がモンゴル軍を撃退)、
- ② フランス(清仏戦争1884－1885年では清が負け、仏にベトナムを70年間割譲したが、最後にベトナムが仏に勝利)、
- ③ 米国(ベトナム戦争1965－1975年、ベトナムが勝利)

と言った大国に勝利している。19世紀初頭に帝国主義がアジア進出を目指した時期に、こんな国はアジアでは珍しい。

ベトナムとモンゴル間の戦争については日本の教科書にも記述が無くご存知の方は多くないのではと想像するので、敢えて説明したい。モンゴルは13世紀にベトナム征服のために派兵したが失敗。その後、躍起となってベトナム攻略した。そのため、日本への蒙古襲来は1274年と1281年の2回だけで終了し、それ以降は中止され、そのお陰で日本は助かった・・・と言う説だ。もしベトナムが易々とモンゴルに負けていたら、矛先は必ずや日本に向かっていただろう。やはり「歴史は見て学べ」が大事だ。



図12 クルーズで食事もある
左端が筆者。

クルーズには中華風の食事も付いていた(図12)。途中でハプニングも用意されている。突然、小船に乗ったオバサンが自分の船を寄せて、裸足で我々の観光船に飛び乗って来る。マンゴー売りだった。マンゴー3個が米ドル\$1で良いと言う。観光船の窓越しにドル紙幣のまま支払った。



図13 水上生活者

ハロン湾水上生活者の場所にも立ち寄る(図13)。クルーズ船を降りて水上生活者の生簀(いけす)を鑑賞。その魚を買うと、観光船に戻って料理してくれるサービスもあった。しかし・・・である。船に帰ったら、冷やしてあった白ワインボトル(図12手前)の量が明らかに減っていた。関係者に飲まれてしまったらしい。それはないよなあ・・・。でもベトナムはそう言うところらしい。

夜、ハノイ市内の現地レストランに飛び込む



図14 現地レストランで夕食

夜ヒルトンから歩いて現地のお店探しに出掛けた。ゆっくりと歩くこと約10分で、現地の人達が大勢いる2階建ての大きなレストランを発見。思い切って入った。英語は通じず。こちらはベトナム語も駄目だが、「ビール！」だけは通じた。若い給仕の女性に助けられながらオーダーが出来た。隣は地元のお兄さん方が4人。酒が入り既に出来上がっていて大声で歓談中。「全くしょうがない人達ねえ」と言わんばかりに、此方の外国人に対して表情を作るカワイイ給仕だった。料理は、海老のココナツミルク茹で(図14)、青野菜のニンニク炒めとライス等だったが文句無く美味。現地通貨で支払い、大満足の夕食だった。

ドン・スアン市場は超過密な雑居ビル



図15 ドン・スアン市場内にて
熱気で蒸し暑かった。

ヒルトンからドン・スアン市場までタクシーをヒルトンか飛ばした。約10分で300円。ここは超有名な市場で、旧市街の北に位置する。三階建ての雑居ビルに、お見事！と言うしかない程ギッシリと小売店が詰まっている(図15)。中に入ると人息で何となく暑苦しい。取り扱う商品は衣類が中心だが、雑貨類も山のようにあり、価格交渉の商談は電卓。フードコートらしき場所もあった。そう言えば国際ジャーリストの櫻井よしこ氏は、ここハノイで育ち、その生家はここの近くの Cotton通りだと後で知った。1940年ごろ父親がハノイで繊維関係の会社を営んでいたという。

スーパー(FIVI MART)は必見

フィーヴィーマートという地元のスーパーがある。これからハノイ訪問を考えている人にはお勧めの店だ。というのは、このスーパーの全商品には価格が VND でちゃんと表示されているからだ。ハノイでは珍しい。だから、他の場所で売られている商品の正当価格をあらかじめ見ておくには、非常に都合の良い場所だ。少なくともハノイ市内で2ヶ所見掛けた。1つはチャックバック湖のちょうど南。2つ目はソフィテル・メトロポールの近くだ(図2参照)。

このスーパーを探検して見ようと入店した時、入口で制止され「自分のバッグ持込は駄目、入口の脇にあるロッカーに入れろ」と言われた。こういう場合は「はい、そうですか・・・」はまずい。指示通りするにしても、貴重品は必ず持参すべきなのだ。指示されたロッカーが実はお店のものではなくて、後で開けたら、中身が盗まれていた・・・なんてことはザラにあるからだ。特に治安の良くない国でそうだ。

スーパーの中を歩くと、その国の物価が非常に良くわかる。実は分かり過ぎて悔やまれたこともある。ここに行く前に買ったお土産の価格がかなりフッカケられていた(約5倍)ことが分かったのである。騙される買い手も悪いのだろうが「ハノイの売り子よ、そんなことして良心が痛まないのか！ちゃんとした商売せい！」と言いたい。

ホーチミン廟

ホテルからタクシーを使い移動。生憎、曜日と時間が合わず、ホーチミンの遺体は見る事が出来ず。仕方なく、その先の生家の前で、鉄格子から中を覗いていたところ、道端にある監視小屋のお兄ちゃんに、「あっちへ行け、シッシッ！！・・・」をされた。全く失礼な奴だった。貴国の外貨獲得に貢献している観光客を、一体何と心得える！

チャックバック湖



図16 チャックバック湖

ホーチミン廟からゆっくりと北へ歩くと、ハノイ市内の北側にある湖に着く。スワンのボートを1時間ぐらい借りて足で漕ぐ。小さな湖なので端から端まで行ける。風で多少ボートが揺れる。湖岸にはレストランがあり、多くの人がゆったりと昼食を楽しんでいた。

その後、湖畔の南側に沿って徒歩でソフィテル・プラザ・ハノイに向かう。



図17 チャックバック湖畔の南側
ちょっとヤバそうな雰囲気だった。

ソフィテル・プラザ・ハノイで昼食は美味

昼食時に、ソフィテルの1階の小奇麗なレストランに入ると、何と日本食のバイキングコースを発見。マグロやイカの刺身など、兎に角、文句なしに美味しく、生き返った感じだった。食材に対しての安心感もあり、一人\$20はお値打ちだった。レストランには欧米の観光客も多く、お金持ち風の中国人観光者も来ていた。ホテル内の売店では、カタコトの英語を喋る売り子と何とかコミュニケーションも取れ、世間話をしながら土産物を幾つか買った。

雨が降り出したが傘もないので、暇つぶしに、ソフィテルからタクシーで近くのインターコンチネンタルホテルまで遊びに行った。帰りも市内見物しながらヒルトンまでタクシーで帰る。そのタクシーの運転を見るにつけ、「ああ、自分で運転しなくて良かった」と思うことしきり。良くあんな運転で事故が起きないなあと思う。道路に線引きも無いし、兎に角、オートバイも車もめちゃくちゃな車線変更や左折、右折をする。

文廟にて



図18 文廟

ベトナム最古の大学の場所。鶴と亀の石造がある。亀の頭をなでて行くのが習慣らしく、現地の人もやっていたので、亀石像の頭をなでて来る。ここは昔、科挙の登用試験をやって優秀な人材を集めていたと聞く。

露天の床屋



図19 露天の床屋(文廟近く)

文廟の壁を背にして、ちゃっかりと路上で商売する床屋がいた。日本のTVなどで観て知ってはいたが、まさか自分がハノイで遭遇するとは…。ショバ代は支払っているのだろうか。床屋の値段も不明。実は、この後にわか雨が降って来た。オジサンは恐らく TENT を張ったのだろう(笑)。



図20 ハノイ駅近くの裏街

文廟の前でしつこいタクシーの勧誘を断り、そこから徒歩でハノイ駅に向かう。直線距離で約500mと近い。暫く歩くと踏切に出た(図20)。線路の奥がハノイ駅の筈だった…。

ハノイ駅近くでの体験



図21 ハノイ駅前にて
この道の横断が中々出来ない。

ところがハノイ駅の近くで道に迷う。その辺のおじさんを捕まえて道を聞く、「ガー、ハノイ？」(ガーは駅という意味で Ga と書く。何故かフランス語の駅 Ga と同じだ)。すると通じた。「あっちだよ」と指差してくれた。その後おじさんは「\$! % & # + < ...」と何やら喋りだすが、言ってることがサッパリ分からない。適当にお礼を言って別れる。

すると今度は小学生らしき女の子がお菓子を売りに来た。断ったのだが、立ち去る後ろ姿を良く見ると、盲目の父の手を引いていた。ああ、買ってあげれば良かった...と後悔。

ハノイ駅構内にて



図22 ハノイ駅構内
ガランとしていて混雑のイメージは全くない。次に発車する列車の切符窓口だけがオープンしていた。

ハノイ駅は薄暗くガラーンとしていた。埃っぽい。東京駅とは比ぶるべくもなく、全く、地方の田舎駅と言った感じ。華やかな御土産店などは皆無。駅の隅っこにあるトイレは有料だったが、知らずに入ろうとすると、近くの机の上で TV を見ているおばさんに呼び止めら500VND 取られた。まあ約2.5円だから只にしても良いのに...などと思う。恐らく、おばさんの仕事が無くなる事自体が駄目なのだろう。この辺に共産主義の片鱗が感じられる。外国人バックパッカーも2カップル居て、このおばさんにロッカーの使い方を聞いていた。

また10ヶ所以上ある切符売り場は殆どカーテンが閉まっていて、数時間先に出る汽車の切符窓口周囲だけに人山が出来ていた。そこでは順番行列などは無く、早い者勝ちのようだった。このあたりは中国と似ている。

ハノイ市内からノイバイ国際空港へ

ハノイ市内からロンビエン(Long Bien)橋の近くを渡り、ノイバイ国際空港へと向かう。ロンビエン橋は1965年開戦のベトナム戦争時に幾度と無く米軍に空爆され、その都度、北ベトナムが修理を繰り返した。その意味で、ベトナム人の粘り強い根性が垣間見える橋だ。橋の下には、茶褐色のホン川(紅河)がゆっくりと流れる。陶器で有名なバッチャンもここから約30分と近い。ヒルトンホテルからバスで約40分揺られノイバイ国際空港に着く。途中の高速道路の道端でオバサンが売っているものがある。フランスパンだ。ベトナム人は植民地時代のフランスパンが好物で、帰宅時に家族のために買って行くのだという。ビニール袋なしで、むき出しのまま売っていた。

おわりに

断っても断ってもニコニコして中々引かない、商魂たくましいベトナム人。特に女性が良く働く。顔つきは中国人にも似ているし、事実、ハノイの北側は中国と国境だ。中国や韓国製のバイクは直ぐ壊れるからと言って、値段の高い日本製を買うプライドの高いベトナム人。そんなベトナム人のルーツは何処なのかが気になってベトナム史を再度勉強して見た。やはりルーツは中国だった。キン族という中国系が86%を占める。その他はタイやビルマに散らばる山岳民族から成る。

本当は時間があれば、「ビクトリア・エクスプレス」という寝台特急に揺られて国境の町サパ(少数民族モン族の村)に行きたかった。この列車(3両連結、内2台は寝台車、1つは食堂車)の予約はサパのホテル「ビクトリア・サパ・ホテル」で可能。何故ホテルで列車の予約？と思われるだろうが、理由は、このフランス系ホテルがお客のために寝台特急を走らせているからである。「ビクトリア・エクスプレス」の支払いも、ホテル宿泊代と一緒に清算出来るらしい。ハノイ駅→ラオカイ駅→サパは電車。サパのモン族には納豆や味噌の文化があり、日本人のルーツではないかという説を唱える学者もいる。

今回ホーチミン(旧サイゴン)には行かなかった。空港に帰る時の日本語の旨い現地ツアーガイドによれば、ベトナムの北と南の文化の差や考え方には基本的な差があり、南の人口の約70%は北から流入した人達だと言う。つまり本来の南生まれの人達の殆どは1975年のサイゴン陥落に祖国を捨て、今や30%しか残っていないと言うことになる。これからはアジアが世界経済を牽引する時代だ。VISTAの一員であるベトナムが今後どんな目覚ましい発展をするか楽しみだ。

以上

会報 23 号に昨年 3 月のオーストリア・ドイツへのオペラ旅行記を書かせていただいた。柴富編集長の了解を得て、後半を書かせていただきます。

昨年のヨーロッパは 30 年振りの寒さだったらしく、3 月 12 日になってもベルリンの池は凍りつき、ドレスデンの公園は雪が凍り付いて真っ白、石畳の歩道や広場もつるつるで歩くのも危なかった。15 日には寒気も少し和らぎ、15-16 日と雨が降った。17 日の朝に散歩に出て驚いた。氷が解けた公園にスノードロップスが咲いていた。枯葉を背負って真っ白い可憐な花が沢山あちこちに開いている。見回すと紫色のクロッカスも咲いていた。自然の営みの不思議さ。私は北国で春を迎えたことがないので驚いたのかも知れません。北海道の春はこのように訪れるのでしょうか。

ベルリンに戻ったら、10 日前にはかちかちに凍っていた動物園横の池の氷が融け始めていた。「氷解けさり葦は角ぐむ、さては時ぞと思うあやにく、今日も昨日も雪の空」は吉九一昌詩「早春賦」の第二節です。神奈川在住の私にはこの感覚は難しいのですが、今の季節、ラジオから「早春賦」が流れると、一年前のベルリンを思い出します。25 日になると暖かいそよ風を感じました。春だ!!と身も心も衣服も軽くなる。とはいっても気温は 8℃くらいですから、人の感覚は不思議なものです。

ボヘミヤのヤン・フスの 100 年後に、西洋世界を二分することになる宗教改革がマルティン・ルターによって始まった。ライプツィヒからベルリンへ戻る途中でヴィッテンベルグ＝ルーテルシュタットで途中下車した。雨もよいの一日を、ルター一家が住んでいた「ルターハウス」で、勉強部屋、寝室、書庫、塔の体験(回心)の部屋。ルターを助けたメランヒトンが住んでいたという「メランヒトンの家」、クラナッハの家もあります。ローマ法王からの破門状をこの木のそばで焼いた「ルターの檜の木」など。

ベルリンに戻って翌 3/21su、国立歌劇場でバレンボイム指揮の「トリスタンとイゾルデ」を聴いた。トリスタンにペーター・ザイフェルト、イゾルデにワルトラウト・マイヤー、マルケ王にルネ・パペという、この三人のうちの一人が日本に来るだけ



ドレスデン：雪解けの翌朝 3/17w



ヴィッテンベルク：ルターハウス



ルターが「95 箇条の論題」を張り出した城教会とその扉



でも大騒ぎになる人たちが集った公演である。配役だけでもバレンボイムの威力か。これは素晴らしかった。二回の休憩を挟んで5時から11時過ぎまで、6時間超を一睡もせず、集中して聴き続けられることが出来るという発見でもあった。同行したドイツ文学教授の夫人は、「バイロイト、ドレスデン、ミュンヘン他で何回もこの曲を聴いて来ましたが、うとうとしないで全曲を聴き通せたのは今回が初めてです」と感想を述べましたが、どうやら、それほどに見事な「トリスタン」だったらしい。

幕間の休憩で話をした50歳くらいの男性はフランクフルトから来たと言う。「今日はベルリンに泊まって明朝帰る」と。「ザイフェルトの声が聴きたくて、ミュンヘンとハンブルグとベルリンに行く。先週はミュンヘンでタンホイザーを聴いた。フランクフルトは3都市から200-300kmくらいだから、丁度良いのです」と。ザイフェルトが出演するたびに、その地に一泊するという熱心なファンである。

それでも生の公演に付き物の失敗はあるものです。前号に書いたマーラーの第三交響曲で見事な演奏をしたオーケストラが、緊張感に満ちた前奏曲が始まって間もなく、トリスタンの眼差しのテーマをヴァイオリンが強く奏する17小節6拍目で、第一クラリネットのレ音が割れてピーと耳障りな音を立てた。私は飛び上がりそうになったし、指揮者もオーケストラの人たちも、息を止めて聴きいていた全聴衆もびっくりしたのは間違いない。音楽は何事もなかったように進んでいったが、主席クラリネット奏者の気の毒なこと。一番驚いたのは本人だったでしょう。

一幕後の盛大な拍手のカーテンコールが終わり、オーケストラ・ピットが空になっても、バレンボイムが楽譜を見つめていた。暫くして彼がポーンと手を打った。ピットから出て行って少し後に、「マエストロ・バレンボイム・・・」と場内アナウンスがあり、客席に残っていた人たちが皆、ロビーに出て行っただけで私も出た。無人の劇場で何が行われたのだろう。

3/22m「カルメン」は人気曲ですから、若い人が沢山いて、白髪ばかりだったこれまでとは違い、華やかな雰囲気が始まった。教授夫妻は2幕が終わったところで「音楽が単調で詰らないから帰る」と。そんな面もあるが、これはこれで、媚薬とか悪魔とかが出ない純然たる人間ドラマの面白さがある。二幕でドン・ホセが有名な「花の歌」でカルメンに対する綿々たる愛を歌い上げた後で、カルメンが「私は何にも囚われない。自由よ。自由！」と歌う場面では耳にはLibertéと聞え、字幕にはFreiheitと出るから分かり易い。



寒々としたサンスースイ宮殿

オペラのない23tu、ポツダムへ行った。会報21号に寄せられた谷口会員の「ポツダムでの感想」は大変参考になりました。ツェツィーリエン宮殿の展示は第二次大戦終了間際の領土問題の交渉経緯が詳しく、スターリンのソ連が領土拡張にどれほど貪欲であったかが良く分かりました。ソ連崩壊後に独立したラトヴィア三国は戦前にはドイツ領でした。

サンスースイ宮殿裏で「菩提樹」を吹いていたフルーティストが、私を見て「荒城の月」に替えたので、横に並んでフルー



ポツダム会談のツェツィーリエン宮

ト伴奏で「春高樓の・・・昔の光今いずこ」ここまではテナーで、続けてバスで、「天上かーげはかわらねーど、栄枯は移る・・・夜半の月」と歌ったら、上手なフルートと変な歌が注目を浴びたらしく、拍手が起こって目の前に置かれた缶にコインが幾つか入ったのでフルーティストに寄付した。辻音楽師のお見事な Customer Satisfaction でした。

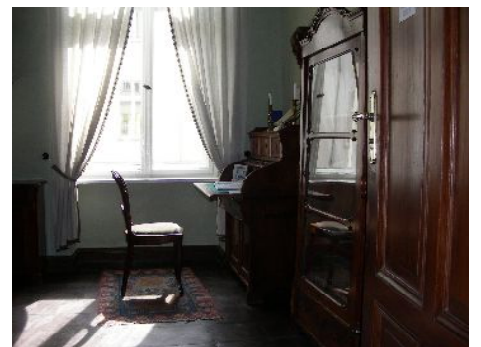


CS 精神の辻フルーティスト

3/24f 鷗外記念館をゆっくり観た。ペルガモン博物館他。夜はベルリン・ドイツ・オペラで「ランメルムアのルチア」。NY メトロポリタン歌劇場で出産のため降板した A.ネトレプコの代役で絶賛されたディアナ・ダムラウのベルリン凱旋興業のはずだった。何とダムラウが風邪のため代役。恋人役のエドガルドを歌ったロベルト・アラニーヤだけが素晴らしく、この晩の演目はオペラ「エドガルド」になった。3幕の「ルチア狂乱の場」を見るに忍びないと考えたのか、2幕までで帰った客がかなりいた。21日のトリスタン幕間で会った若い日本女性から「昨日のダムラウのルチア初日を聴くために頑張ってチケットを買い、休暇をとって来たのに、ヘナヘナの代役でがっかりしました」と聞いていたので、中4日中に風邪が治れば良いかと淡い期待を抱いていたが残念だった。聞いていた通りにヘナヘナの代役だったと云えばそれまでだが、この公演は€120 という今回の旅行中でも破格の高値でした。参考：このルチア公演は3回あって、初めの二回はダムラウ、三晩目はルチア役だけ別のソプラノが歌うことで€86.00。ダムラウの人気のほどが知れます。まあ、こういうこともあるか。



鷗外留学当時の建物(上)と部屋(下)



ちなみに、昨年ドイツでがっかりした先生の最近の感想。「去る 3/6 日本オペラ振興会(藤原歌劇団)のルチアは、一年前のベルリン公演よりも断然よかった。日本人の出演するオペラでは珍しく熱狂的な拍手になりました」。同じ公演を、なぎあひるさんは、「ルチアを観ました。ちょー感動。しあわせ」とブログに書いていました。



ペルガモン博物館ペルシャ陶器壁画

3/25th ベルリン空襲の記念碑のような「カイザー・ヴィルヘルム記念教会」(広島原爆ドームに似た扱い)。国立絵画館。ここは、中世から現代までの絵画や古い教会の祭壇などが集大成されていて実に素晴らしい。エジプトの女王ネフェルテテの頭部像が売りの新博物館。ボーデ美術館など。

晩はドレスデンでも聴いたトスカをドイツ・オペラで。何と半世紀前の演出をそのまま使っていた。今風の難しく凝った、あるいはえらく簡略化した舞台よりも安心して鑑賞出来る。またまたお金の話で恐縮ですが、ルチア同様人気抜群の曲ですから、一階バルコニー(日本の2階)ほぼ中央最前列が€86.00。トリスタン、カルメンは同じ席が€66.00。イタリア・オペラの人気

曲とドイツ・フランスの名曲でこれほどの差があるのも不思議な感じです。そういえばドレスデンのトスカも、指輪4部作より、3割ほど高価でした。

3/26f. ブランデンブルク門から徒歩5分でポツダム広場に隣接する一等地に建設された「虐殺されたヨーロッパのユダヤ人を記録する記念碑」**It happened, so it may happen again.**の文字が不気味に輝く。ある展示室では、ヨーロッパ全域で虐殺された犠牲者一人ひとりの名前とその生涯を読み上げながら、その人の写真などをスライドに映していました。犠牲者数何名なのか詳らかでないが、全てを読み終わるまで6年8ヶ月掛かるそうである。

学生時代に観たJ.L.ゴダール監督の「気狂いピエロ」に出てきたマリアンヌの台詞「…ベトナム側も115名戦死。無名って恐ろしいわね。ゲリラ115名戦死だけでは何も分らないわ。一人々々の事は何も分らない。妻や子供がいたのか、芝居より映画が好きだったか、何も分らない。115名戦死というだけ」を思い出した。xxx万人の一語で済みますか、あるいは、7年掛けて一人ひとりの生涯を読み上げてゆくか。



要塞あるいは墓石の集積の如き外観の「虐殺されたヨーロッパのユダヤ人を記録する記念碑」（展示は地下）

夜は、国立歌劇場でエフゲニ・オネーギンを聴いた。「愛の妙薬」、「椿姫」、「ボエーム」などでA.ネトレプコの恋人役で登場し、今や若手テナー人気No.1のR.ビリャソンは喉の手術後の復帰公演。彼も代役になると心配したが、レンスキー役を見事に歌いきった。上に挙げた3曲のDVDで観るよりは、声を若干セーブするようになったようである。この晩はビリャソンの追っ駆け小母さんが多かったようにみえた。

3/27sa はオペラ旅行最後の公演である。三大テナーで有名なプラシド・ドミンゴが69歳でバリトンに転向しての「シモン・ボッカネグラ」である。ところが、2月初旬のNYメトロポリタン公演後、日本で2夜のコンサートに出て、NYに戻って手術を受けたため、これも代役。指揮者がバレンボイムなので、彼の眼鏡に合った歌手を選ぶだろうから、オペラ「フィエスコ」にはならないだろうと思いつつ出掛けた。フィエスコ以外の準主役2人も聞き覚えのない歌手に代わったが、さすがはバレンボイムでこれも見事だった。ウィーンでこの旅行の最初に聴いた「シモン」も代役で、それでもウィーン国立歌劇場の名に相応しい立派な公演だったが、ベルリンの代役で聴いた「シモン」の方が圧倒的に素晴らしい。結局、オペラは音楽劇であり、音楽面を統率する指揮者が公演の成否を決めるということらしい。



バレンボイム指揮の公演では、終演後、オーケストラ楽員が舞台上に勢揃いする

いずれ、世界に名を轟かすであろう代役の三名を書いております。Simon Boccanegra: Andrezej Dobber、Maria: Ailyn Perz、Gabriele Adorno: Aquiles Machad。唯一変わらなかったフィエスコ役は、シチリア・マッシモ劇場、ロンドンのコヴェント・ガーデン、マドリッド王立歌劇場他でも、この役を勤めたフルッチョ・フルラネット。フルラネットも素晴らしかったが、オペラ「フィエスコ」にならなくて本当に良かった。ドミンゴとフルラネット二人が対決する「シモン・ボッカネグラ」はコヴェント・ガーデンでの公演が DVD になっています。

3/27su 帰国日の朝食時に、同行した教授夫人が「主人は昨夜、興奮して一睡も出来なかったらしく、一晩中、机に向かって書いていました。今日はウィーン経由で帰国するだけですから、飛行機の中で眠れるでしょう」と。

さて一ヶ月を振り返ってみると、日本にいたのでは時間的・金銭的に一生掛かっても聴けないような贅沢な顔ぶれで素晴らしいオペラとコンサートを聴くという密度の濃い夢のような一ヶ月でした。それにしても半年前の予告と違うこと。初日ウィーンの「シモン・ボッカネグラ」はレオ・ヌッチの筈がジェリコ・ルチッチに、マーラー第三交響曲は J.レヴァインが D.バレンボイムに、指輪4夜の指揮者は F.ルイジが私の知らない三人の分担に、カルメンの闘牛士役、残念だったルチア。ベルリン最終日の「シモン・ボッカネグラ」は主役と準主役級の3人。インターネットで購入した18公演の半分で重要な配役が替わった。まあ、生身の人間なのだから仕方がないか。にも拘らず期待外れがルチアだけだったことに、ヨーロッパでの音楽家の層の厚みを感じました。

旅行記の終わりに旧東ドイツ圏のTV番組について。ドイツ語放送局が4-5チャンネルと英語のBBC Int'lとCNNだけ。最大のニュースはギリシャの金融経済危機とその波及懸念、寒波による大雪でアルプスの南側(北イタリア)でも物資輸送が滞り市民生活が混乱しているなど。M.シュマッハーのF1復帰が連日報道されたが、オーストラリアF1中継はなかった。EurosportsもないからSnookerやDarts選手権も見られず。ドイツ語を話すドラえもんもない。15年前に見たイタリア語のドラちゃんとのび太君の会話は面白かったのに(何となく雰囲気判るから不思議です)。そして、一ヶ月間に見た日本のニュースはふたつだけ。日銀が金融緩和策に苦悩・・・とペットの全身シャンプー・ショップ。「ぬるま湯シャンプーで温風乾燥ですから犬も猫も飼い主も幸せ」と店員が話していました。平和な日本。

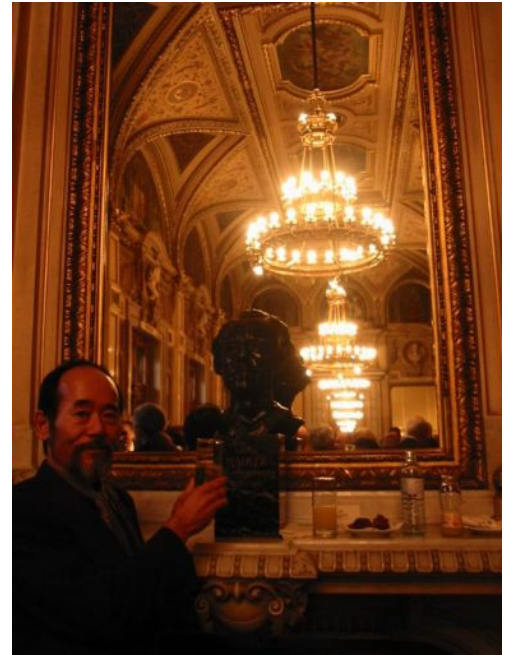
今回の旅行は準備段階から帰国後まで、多くの方々のお世話になりました。バッハ・ツアの経験で助言して下さったGH氏、グラスシ楽器博物館ではNY調律師、谷口会員のポツダム記、男声合唱団TraumのSW/NM両先生と団員の皆様、とりわけチケット購入・ホテル予約から雪道の歩き方、赤頭巾ちゃんスパークリング・ワインに至るまで全面的にお世話になったMT先生ご夫妻。更に続編執筆を快諾された柴富編集長。心から感謝申し上げます。

しかしよく考えてみると、本会の大先輩および同僚の方々にこそ、一番に感謝しなければならないようである。電子情報通信技術の淵源を何処まで遡るかは議論があるでしょうが、C.E.Schannon 通信の数学的理論(情報理論 1948 年)から H.Hertz の電磁波実験(1888 年)、Maxwell/Heaviside の電磁場方程式(1865-1884 年)と辿っても高々140年ほどのICTの進歩発

展のお陰です。インターネットを通して日本の自宅に居ながら、ヨーロッパの劇場の演目、出演者、好みの席と価格を調べて、即座に購入出来る。ホテル予約からドイツ鉄道の一ヶ月券も買えるというシステムが出来上がっているからこそ昨年の旅行が可能でした。この10年間の世界の変わりようは将に目を見張るものがあります。

北アフリカのイスラム諸国では民主化要求の波がネットで広がり政変が起きるし、受験生がネットに回答を求めるようになった。そういえば、ドレスデンのアパートメントから日本への電話は8分で€0.17。耳を疑ったが、20円ばかりで清算した。調子に乗ってベルリンのホテルから10分ほど電話したら、なんと€48=¥6,000を請求された。なかなか難しいものです。

会員の皆様の事業の発展とご健勝をお祈りします。



2010年、生誕150年のマーラーに乾杯
今年は没後100年。ウィーン国立歌劇場

あとがきのあとがき

この原稿を執筆中の3月11日、午後2時46分に東日本大地震が発生しました。本会会員およびMWE関係者も多くの方がお住まいで、安否が気遣われます。関東在住の会員の中にも、事務所で、あるいはホテルで一夜を過ごしたり、帰宅に数時間歩いたりと苦労された方が多数おられたことと思います。

私は1989年10月17日午後5時のサンフランシスコ大地震をパロ・アルトで経験しました。停電で電子ロックのホテルからは締め出される。唯一開いていた小さなインド料理店で侘しいロウソクの光の中でカレーライスを食べ、帰る場所がないので長い時間をかけて食べた。深夜過ぎにやっと部屋に入れましたが、TVには真っ暗な画面に道路情報がテロップで流れるだけでした。現場に残されると、目に見える世界以外は全く見えない。

今回の報道で津波にのみ込まれたり流されてゆく家々や車両を見ると目を覆いたくなります。しかし、現場の状況のリアルタイム映像が見られることで、どれほど救助に貢献するか計り知れない。22年前のサンフランシスコとは大違いです。これも本会会員の方々と業界の長年の努力の一端であろうかと考えています。最大の気掛かりは原発事故です。早期安定を祈るばかりです。それにしても米国の情報収集力と決断の素早さはさすがです。

1) 在日米海軍司令部によると、米原子力空母ロナルド・レーガンが13日、日本の東北沿岸海域に到着した。日本の自衛隊と協力し、災害支援活動を開始する。2011/03/13 14:28p.m.

2) 【ワシントンAFP=時事】米地質調査所(USGS)の研究者らは12日、東日本大震災の一連の揺れにより、日本列島が8フィート(約2.4メートル)動いたとの見解を明らかにした。3月13日(日)14時51分配信。

もっとも当事者でないからこそ冷静な情報分析が出来るのだと思いますが。

亡くなられた多数の方のご冥福と、被災地の方々に一刻も早く平安のおとずれることを、一年前の平和な日本に一日も早く回復できるよう、全会員と共に祈りつつ。

2011/3/14m_22:36p.m.

寄稿

考える人

柴富 昭洋

昨年 12 月初旬十数年振りにサンフランシスコのヒルトンホテルで開催された **IEDM2010 (International Electron Device Meeting)** に参加した。国際会議のアカデミックな雰囲気に触れることは久しぶりのことであった。予期していなかったことは多くの友人に出会えたことであった。特に大学の教授達は現役バリバリ、質問どころか発表する友人も多くいた。夜のランプセッションではパネラーとなり多くの発言をしているの



霧に霞む金門橋とテレグラムヒル

に驚かされると共に、まだまだ歳に甘んじてはいけない、頑張らなければと勇気付けられた。ランプセッションが終わっても夜遅くまで日本の教育や政治について議論を戦っていたバイタリティーにも驚かされた。サンフランシスコは雨季であった。ケーブルカーの頂上あたりで見た霧に霞むゴールデンゲートブリッジ、テレグラムヒルは印象的であり、思わず *I left my heart in San Francisco*… ♪ の歌を口ずさんでいた。早朝のフィッシャーマンズワーフでは観光客もまだ少なく、肌寒い霧に霞む岬から霧笛が聞こえてきた。

学会の終了後、半導体分野では大変著名なスタンフォード大学の旧知の N 教授より招待をいただいた。N 教授の奥様とは小、中、高と同窓であり、近所に住んでいた誼でもあった。N 教授の研究室を訪問する前に奥様のご案内で大学構内を見て回った。既にご存知の如く、当大学はアメリカ大陸横断鉄道の創設者であるスタンフォードが一人息子を 19 歳で腸チフスの病で亡くし、少しでも子供に期待していたことを後世の子供たちに伝え残そうと、その子息の名前をつけた大学が創設の動機と云われる。アメリカの超名門大学であり多くの著名人を輩出している。アメリカと云われる広大な構内にフーバータワーとそれに続く教会とメキシカン風な回廊と建物がほぼ構内の中央に位置している。タワーには創設時の蔵書も多くあると云われる図書館と創設者の遺品が展示されている。教会の壁面にはフレスコ画と見まがう美しいモザイクで聖書の場面が数多く描かれている。聖書が読めなくても見るだけでキリスト教の教義に人々を導く仕掛けである。教会の内部も同様の



カレーの市民

モザイクによる緻密な絵で飾られている。建物の下半分が砂岩であり上部は木造建築である。カラフルなステンドグラスの聖壇が南の方角に位置していることと、中央のドームに大きな明り取りがあり、日中では明かりが無くとも明るい教会である。荘厳で薄暗いヨーロッパの教会を見慣れた小生には、此处にも古きアメリカの良き風習が残っていると変に関心した次第である。十数年前のサンフランシスコ大地震で脆い砂岩で作られた教会や回廊、研究室（現在も使用している）に多くの被害が出たが、ほぼ修復の終わったとのことであった。大学構内のセンター通りの突き当りに教会と回廊が位置するが、その回廊入口の左側にロダンのカレーの市民の彫刻が展示されている。何れも意気消沈した俯き加減の6体の銅像でありまるで刑場に引かれて行く罪人のごとくであった。気になったので後ほど詳細を調べた。イギリスとフランスが100年戦争を行っていた。ドーバー海峡近くフランスのカレー城塞がイギリス軍により1年に渡り包囲攻撃を受けたが難航不落のお城であった。しかし場内は兵糧も尽き果て飢餓状態となった。イギリス軍は6人に城門の鍵をもってきて開城すれば、市民の虐殺はしないとの約束であった。名乗り出た6人は虐殺されたが、市民は救われた。後年、カレー市はこの6人の英雄をたたえた銅像をロダンの発注した。出来上がった像はカレー市が期待した6人の英雄像ではなく、いずれも恐怖にこのく像であったために、カレー市は引き取りを拒否した。しかしロダンの真意が理解でき後程市に建立されたとの経緯があった。構内センター通りの中間あたりの右側の文系キャンパスの一角にロダン博物館があり、カレーの市民像同様に地獄の門と地獄の模様を描いたと思われる像が十数点野外展示されていた。上野の西洋美術館構内展示のロダンの彫刻（考える人、カレーの市民、地獄の門）は松方正義が戦前に購入してとのことで、世界



地獄の門

扉の上の考える人



に7つのコピー像があると云われている。考える人は国内では教育の啓蒙的な引用から単独の像が良く紹介されているが果たしてロダンの真意を反映しているのでしょうか？この考える人の像は地獄の門の上に腰かけた考える像である。彼は何を考えているのでしょうか？なぜ地獄の門の上に座っているのでしょうか？ロダンの真意は何なのであるのか？・・・像を見ながら次々に疑問が湧いてきた。地獄の門はダンテの「神曲」地獄篇に登場する地獄への入口を表しているとは知っていたが、ダンテの神曲を読んだことがないので、アンチョコな解説書を一読してみた。この解説書から何とか“彼は何の思索に耽っているのか？”思い巡らせてみた。13世紀の末に書かれたイタリア詩人のダンテは叙事詩「神曲」を書いた。「神曲」はお堅い宗教色濃ゆい本と思いきや「神聖なる喜劇」が原題である。内容はダンテが古代ローマの詩人ウエルギリラスに導かれて死後の地獄を巡る内容

である。地獄とは三位一体（聖なる威力、比類なき智慧、第一の愛）の神の創造によるものである。その地獄篇第3歌に登場する地獄への入口の門である。当章第3歌は地獄篇、煉獄編、天国編、からなる。地獄界では死後の罰を受ける罪人たち、永劫の罰を受ける、永劫の罰を受け続ける救い難い地獄の住人と異なり、煉獄界では悔悟に達したもの、悔悛の余地のあるものがここで罪を贖うところである。天国界では神の庇護のもと安らかで幸せな世界が待ち受けている。仏法の世界も全く同様の死後の世界が展開する。地獄篇は仏法では地獄絵図に匹敵しており、俗姓の罪に苛まされるのは全く同様の表現である。煉獄編は僧侶の説法に従い、説法を理解することにより諸悪の罪行から解放され、天国編では悟りを開いた仏の世界、曼荼羅絵図に描かれた至福の世界である。キリスト教も仏教も全く相通ずる宗教感である。ロダンの地獄の門も完成半ばで終わっているといわれている。確かに、地獄の門の前にある銅像は何れも、地獄の門に彫られている像同様に、地獄で悶え苦しむ男女の像である。恐らくロダンはダンテの神曲をモデルに創作活動を行ったのであるから地獄の門から入った地獄篇に続いて、煉獄編、神々のご加護の下、至福の世界まで彫る創作計画であったのであろうか？それとも、人間の罪深い業の深さに呆れはて、決して神におぼし召しで天国に行けるわけではないと、開き直ったのであろうか？当時のロダン自身の宗教感は如何のものであったのであろうか？・・・知る由もないが。

ところで地獄の門の上で頬杖をついて思索している男を地獄の入口の門の上に置いたロダンの意図は何なものであろう？そして彼は何の思索に耽っているのであろうか？との疑問がこの地獄の門の彫刻像を前にして湧いてきた。ダンテ自身である！いやロダン自身である！・・・と云われている。

前述のカレーの市民の像が、民衆が求めた英雄像ではなく、これから身に降りかかる残虐行為の恐怖、残してきた家族への思い、苦悩で打ち引裂かれた顔、姿態を表現したことから考えると、この考える男は一般民衆の代表的な人物であり、今までの人生で行った罪悪や反省、死後の世界、これから死ぬまでの世界をどの様に生きるべきか・・・に思いを巡らせているのではないだろうか？・・・との考えに至った。

（文責：柴富 2011.01.30）

会社紹介

ウェイブ・エレクトロニクス・ジャパン株式会社

泉 彰
技術顧問

韓国の成均館（ソングンガアン）大学教授（現役）の経営する移動通信向けRF装置。部品メーカーWave Electronics Co., LTD と縁があり、2008年から技術顧問として活躍してきました。1年後の2009年1月に日本市場への本格的な参入を成功させるため日本法人を立ち上げました。

現在は韓国本社から移籍しました金敬東社長を中心とした6名で活動中です。ジャパン、韓国本社の状況についてご紹介させていただきます。



1) ウェイブ・エレクトロニクス・ジャパン株式会社

設立	2009年（平成21年）
資本金	4000万円
所在地	横浜市港北区新横浜 2-5-19
代表	金 敬東
業務内容	無線通信機器（移動基地局）及び部品の輸出入及び販売。 電子部品の輸出及び販売 ソフトウェアの開発及び販売 通信機器に関するコンサルタント業

2) Wave Electronics Co., Ltd.（韓国本社）：次頁より紹介

Wave Electronics

弊社は、1999年、設立以来、移動通信のインフラを支えるRF製品をお届けしております。

事業開始から、SK Telecom, KTF, LG Telecom等のお客様にRFパワーアンプを供給させていただいて以来、最近では高品質のRRHの提供を通してシステムメーカー様及びキャリア様に貢献しております。

弊社は、Low CostとHigh Qualityの追求を実現するため、弊社の最も大きな資産である優秀なエンジニアリング能力を生かし、常に創意工夫することにより、独自技術の発展と優れた「ものづくり」を目指しております。

特に2010年度からはWave Japan(株)を本格的に稼働し、今までよりもっとアクティブに顧客にご満足いただける製品とサービスのご提供に励んで参ります。



会社概要

社名	Wave Electronics Co., Ltd.
設立	1999年10月13日
CEO	Cheon-seok Park (朴天錫)
主な事業内容	RRH (Remote Radio Head), RF Power Amplifier, RF Passive module.
資本金	約4億5千万円 (2009年12月末現在)
売上高	約48億円 (2010年12月末現在)
従業員	120人
住所	14-10, Seodun-dong, GwonSeon-gu, Suwon-si, Gyeonggi-do, 441-853, Korea Phone: +82 31 269 0010 Fax: +82 31 291 9640 Web Site: www.wavelc.com

2

主な製品群

❖ Application

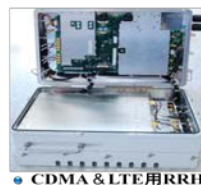
- 800MHz CDMA, CDMA2000
- 1.8GHz CDMA, CDMA2000, EVDO
- 2.1GHz DS CDMA, WCDMA, UMTS, LTE
- 2.3GHz WiBro, WiMAX
- 2.5GHz WiMAX
- 2.6GHz Satellite DMB
- 3.5GHz WiMAX

❖ 仕様対応

- Output Power : 0.1W ~ over 100W
- Gain : 30dB ~ over 70dB
- Carrier : Single ~ over 20ea.

❖ 線形化方式

- DPD (Pre-distortion)
- DPD + Doherty
- LPA (Feed-forward)
- LPA (Feed-forward+Doherty)



● CDMA & LTE用RRH



● Wi-MAX用RRH



● CDMA基地局用
LPA



● Wi-Bro基地局用
LPA

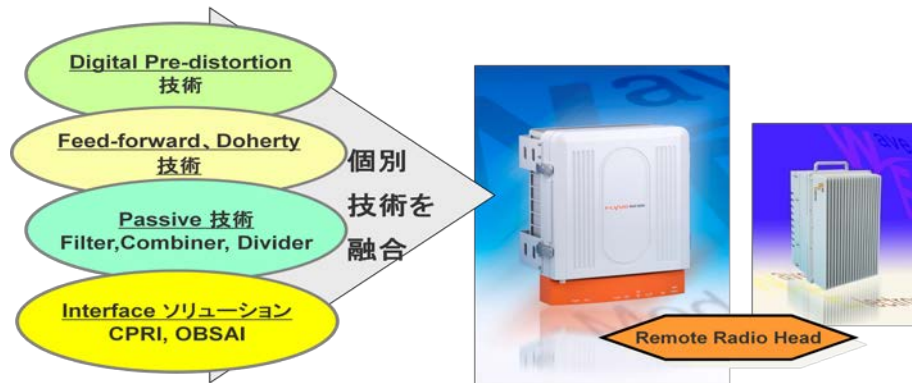


● CDMA Repeater用



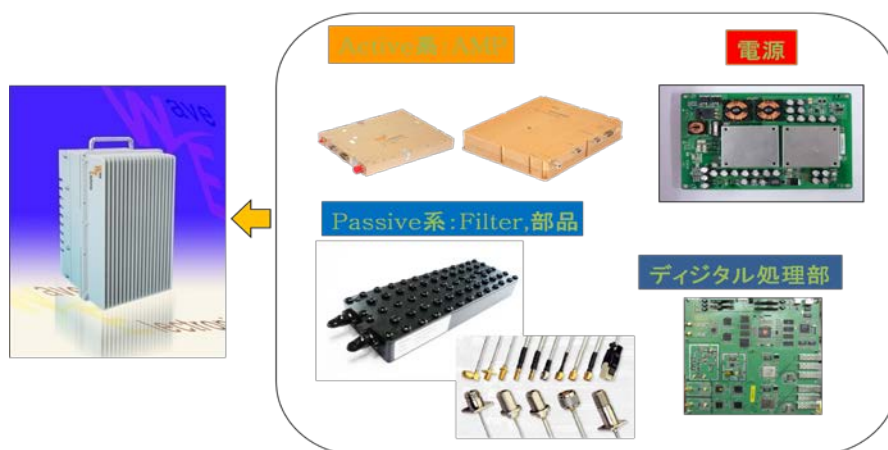
● DMB Repeater用

保有技術の統合化



4

RRHの価格競争力・品質確保のための自社開発・生産対応



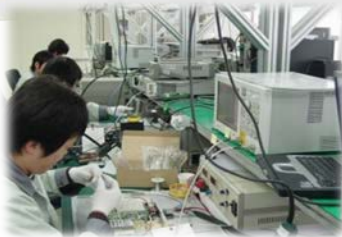
製品の主な出荷先



月間生産能力

月間生産能力

- ❖ HPA: 3,000台
- ❖ LPA: 1,600台
- ❖ DPDアンプ: 2,400台
- ❖ RRH: 2,400台



韓国本社

Wave Electronics Co., Ltd.

14-10, Seodun-Dong, Kwonsun-Ku Suwon-City, Kyungki-Do, KOREA

Tel : 82-31-269-0010 Fax : 82-31-269-0010

中国支社

Wave Electronics China Co., Ltd.

Room 501, No. 6 Building, Cool Pad information Center, No2 Mengxi Road,
North of High-tech Park, , North District Nanshan, Shenzhen 518057, China

Tel : 86-755-2603-0329

日本支社

Wave Electronics Japan Co., Ltd.

Apuri Shinyokohama Building 2F, Shinyokohama 2-5-19, Kouhoku-ku,
Yokohamash, Kanagawa-Ken, 222-0033 Japan

Tel : 81-45-624-8019 Fax : 81-45-624-8039

一. まえがき

今オーディオ? 「何それ!」と言われそうですが、でも昔、学生時代にありましたよね。JBL、アルテック、タンノイ(Tannoy)、…劇場用、スタジオモニター用のスピーカ(以下 SP)が店に並んでいたあの自由と喧騒の時代が。町に出ると、いたるところにジャズ喫茶がありました。暗い階段を下りて地下室のドアを開けるとアルテックのバレンシアからマイルスのトランペットが、コルトレーンのサックスが耳を劈く音で咆哮していた。あの音が原点で、いまだに変わりません。それは、アルテック 604-8H との長い付き合いの始まりでした。

二. 30 年前

60～70 年代、米のレコーディングスタジオの SP、映画館の大型 SP の多くが ALTECH 製でした。信頼性と音響効率が極めて高く(JBL より 10dB 近く高い!!)、アナハイムの風と言われる軽くレスポンスの良い低音、明るく張りの有る音質に魅せられた人も多く、いわゆるアルテックサウンドと呼ばれていました。

なかでも、1945 年の初代から始まるモニタースピーカ 604 シリーズはデュプレックス方式と称され、低域ウーファー、高域コンプレッション・ドライバ用に、それぞれ独立したアルニコマグネットを使用し、38 センチウーファーマグネットを貫通したホーンから高域を放射するという非常に贅沢な構造でした(図 1)。アメリカの良き時代のスピーカ技術の到達点で、その最大のメリットは点音源による抜群の定位感、音像が固定され狭い部屋でも聞けること、と信頼性です。

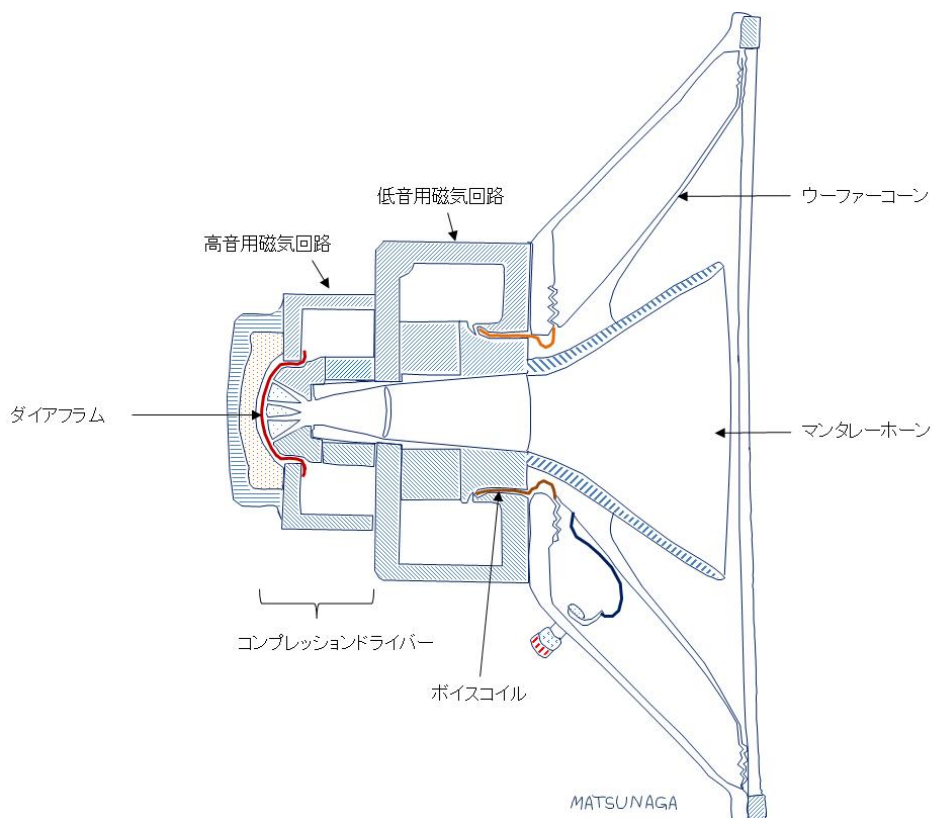


図 1 604-8H の断面構造

放送モニタ用として NHK の BTS (放送技術規格) を満たしたダイアトーンのロクハン(6 インチ半=16cm 径)SP も、はっとする程リアルに人の声が響くときがあります。でも、耳かきロクハンでは、あの咆哮は手に入りません。やはり、バレンシアと同様な 38 センチと中高音ホーンの 2 ウエイ SP が欲しい。そして、この 2 ウエイを定位感にすぐれた同軸で実現した 604 を、いつかは、と半ば憧れていました。

この 38 センチのアルテックの同軸を手に入れるチャンスは思いのほか早くやって来ました。70 年代後半、ザイール内戦でコバルトの供給が逼迫しアルニコ磁石が手に入らなくなり米国製スピーカが一斉にフェライト磁石に変わり始めたのです。扁平なフェライト磁気回路では同軸ホーンは形成出来ない。今しか無いと、決心しました。アナハイム工場から直送されてきたダンボールの梱包を解くと、特徴あるマンタレーホーンを備えた憧れの 604-8H が現れました。あの音が出るかとコーン紙を手で叩くとポンポンと心地よく響きました。アルテック固有の軽く強いコーン紙を存分に駆動するため箱は音研型として側壁を二重補強、柱材で前後のパネルを補強支持した。80kg の重量級 SP に仕上がりました。

30 年間一度も故障なしです。このアルニコ磁石をホーンに用いたアルテック同軸型シリーズは、基本構造は変わらず初代から 7 代目の、この 604-8H が最後になりました。「30 年前に姿を消した今に残る名機」と思っています。

三. 製作

24mm 厚のシナ合板を東急ハンズで購入、切断、穴あけ加工した。裏蓋以外はネジ頭が見えないように、板は内部からボンドと木ネジで固定しました。二つの箱の一方で子供を遊ばせながら、土日の作業を続けました。永く愛用するには見栄えは大切です。オーク調の顔料にクリアニスの重ね塗りで丁寧に仕上げたつもりですが、急ぎすぎて斑に成り、リムーバで除去して再度トライの泣きもみました。

604-8H を鳴らすのは、最高のアンプでと、当時、無線と実験誌で圧倒的な支持を得ていた金田明彦氏提案になる DC パワーアンプを選びました。デュアル FET を初段に用いた差動 2 段、OP アンプ制御で大電流電源を安定化する方式です。プリアンプも同じく金田式を製作し、このプリに変えただけでも、それまでのシステムのレスポンスが違いました。ついで、AB 級 120W ×2 のパワーアンプの製作に入りました。トランジスタの hfe を測定して差動アンプのペアー組みをし、トロイダルコアトランス、大電流制御電源、熱暴走を抑える熱結合による熱補償などに加え、DC 検出保護回路には細心の注意を注ぎました。DC アンプでは、回路に異常が発生すると、アンバランス分が増幅されて大 DC 電圧が SP へ加わりボイスコイルを溶断してしまいます。これだけは、なんとしても避けた。SP への長周期 DC を検出して電源を遮断する保護回路は熱補償の塊りのような金田式には必須でした。ガラエポ基板でパターンを起こし、回路設計の確認と誤配線が無いように念を入れました。電源スイッチを入れると突入電流により一瞬部屋の照明が暗くなりました(図 2)。

ズーンと腹に響く低音、広域まで伸びた周波数特性は、今までと異なる次元の音でした。疲れて夜遅く帰り、MJQ を聴く。ジョンルイスのピアノが心を捉え、琴線を震わせるアドリブに癒されていました。が、そのうち、歯切れの良い低音とホーンから出るトランペットの鋭さに、質的には満たされるものの、時には音に疲れる、もう少し穏やかに緩やかに鳴らしてみたいなという気持ちの時もあります。



図 2 DC パワーアンプ

真空管アンプ作りに手を出したのはこの頃です。HAM で持っていた UY-807 や 6L6-G の 3 結など作って試してみましたが、最後に残ったのは、トランス結合 6CA7 三極管接続アンプでした。604-8H からマイルスのミュートが柔らかく艶かしく響きます。美空ひばりのみだれ髪も。トランス結合にすればピーク入力ではグリッド電流を流せるのでバイアス変動が抑えられ伸び伸びと鳴るはず。さらに 6CA7 を駆動する電圧をトランスで昇圧して倍にして稼げるので増幅段数も減らせ、真空管アンプには最適と考えたのは間違いありませんでした(図 3)。この球 6CA7 は、フィリップス製 EL34 の松下電器のライセンス生産品。1953 年開発の近代的真空管で音の良さと安定性抜群。GT 管でありながら貴公子と呼ばれたスリムな筒型、今でもたっぷりとゲッターが付着しており当分現役で使えそう。ありがたい製品です。

この二台のアンプを気分に合わせて取り替えて、604-8H を鳴らしていました。そのうちずいぶんと月日が経ちました。



図 3 真空管パワーアンプ

四. その後

スピーカの前で孫がアニタのマック・ザ・ナイフに合わせてリズムを取ってます。箱作りのとき中で遊んでいた娘の児です。長い付き合いになりましたが、JBL に目移りする事無く済んだのは 604-8H の完成度の高さであり、基準になるスピーカを選んだことによると思います。でも、これは、一つの選択であり、すばらしいホーンシステムを築きあげていたか、あるいは煩雑さに嫌気がさして、この趣味を放りこれで良かったかどうかは判りません。あるいは、マルチ駆動へと進出していたかも知れません。

最近になって、金田式アンプが故障しました。保護回路が働き出力が出なくなったのです。トランジスタ(TR)は熱上昇するとコレクタ電流が増え熱暴走し破損する。そのため、バイアス設定に用いる TR を出力 TR と熱結合し、熱上昇分を補償するようにバイアス値を下げて使いま

す。この熱結合に使う接着剤(アラルダイト)の劣化による熱暴走でした。修理しようとしたのですが、オーディオ用のバイポーラ TR が売られていない。会社の仕事で毎日明け暮れるうちに、デバイスの変遷は激しく、もう主流は MOS-FET の時代に入っていました。

日立(ルネサス)の MOS-FET の中には温度上昇につれてドレイン電流が低下し温度補償の必要が無いものがあるのです。技術の進歩ですね。バイポーラ TR では考えられない使い安さ。早速、MOS-FET の音を聴いてみたくて、MOS-FET を出力段に用いた DC パワーアンプを製作した。スピーカからの逆起電力の影響を抑え音が鮮やかになるという説にしたがい出力段は NO-NFB(負帰還)としました。帯域も十分に伸び、クリス・コナーのブラックコーヒーで嚙下まで聞こえるアンプに仕上がりました。今メインに使っています。これに味を占め、電源部を充実させた全段プッシュプルの FET アンプを製作中です(図 4)。



図 4 SP システムと製作中の MOSFET アンプ

五. これから

幻の球といわれるウェスタン・エレクトリック製の真空管 300B ペアー(1987 年製)を手に入れました。トランス結合用インターステージ、出力、電源、フィルタの各トランスも揃えました。直熱三極管がどのような音を響かせるのか、総重量 30kg にもなるアンプをどこで作るか、今から期待と頭を悩ませています。

オーディオの趣味は、より良い音を求めて回路方式やデバイス技術の追求は進められています。LTSpice や PSpice が使えるようになり、カスコードの差動でも試行実験(シミュレーション)が簡単に我が家の PC で出来るようになり形は整います。でも、音の評価は耳と体で聞く感性が大切で、測定器の数値では表せない世界になっています。人の聴覚はすごいですから。アンプの方式一つにしても、使う部品で音が変わり、負帰還でさえ要不要で諸説入りみだれています。良い音が技術的には何なのかを求めて尽きない世界です。

違和感の無い心地よい音を部屋で朗々と響かせたい。マルチアンプにして各音域のスピーカを個別に駆動すれば違う時限の音が求められるとも聞きますが、その前に狭い部屋を脱する計画を実行に移すか、など、システムUPに向けてトライしてみたいことは数多^{あまた}あります。これから、悠々と時間を使って実りある収穫を求めていきたいと思っています。

自己紹介

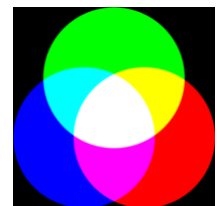
風神 裕

略歴等については、Mwe シニア会のホームページ会員からの投稿「ホームページ開設-奮闘記-」に記載していますので、ここでは、近況を中心に纏めました。また、写真を1枚掲載するようにとのことで、一番ふさわしいと思われる写真を選びました。今までに掲載された自己紹介の写真はポートレートが主体で、綺麗なお花と一緒に撮ったのが見当たらなかったもので、敢えて挑戦してみました。退職後、モデルとして生計を立てている訳ではありません。

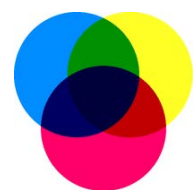


学生時代は写真部に所属していたが、皆が持っているニコンFを欲しいなあと思っているだけで、殆ど写真を撮らず、コンパ要員としての貢献のみで、卒業。三菱電機を退職後、何を思ったか、多分、ニコンのカタログの木村卓也の姿が若き日の自画像と重なったのか、ニコン D7000 を購入、悪戦苦闘している毎日です。デジ一眼は、銀塩フィルム時代のカメラに比べ使い易いと言われるが、それ程簡単でもない。学生時代に使用していたペンタックス SP は、絞りを1/60 か 1/125 に設定し、TTL で測光(針が中心に来るよう絞りリングを操作)、中心の像が鮮明になるよう焦点距離を調整するだけでOKだったが、デジ一眼は、焦点距離は勝手にカメラが調整してくれるが、それ以外に、ホワイトバランス、露出補正、ピクチャコントロール、更に、ISO 感度の調整まで加わり、シャッターを押すまでかなりの設定を求められる。一番大きな違いは、銀塩フィルムの時代はモノクロ写真が中心であったが、デジ一眼では、カラー写真になっているのが大きな原因。

カラーとなると中学生時代のことが思い出される。美術の試験問題だったと思う、問1：「光の3原色を混ぜると何色になるか」、問2：「絵具の3原色を混ぜると何色になるか」という問題に対し、白色、黒色と答えず、限りなく白色に近い灰色、限りなく黒色に近い灰色と回答し、採点結果は、問1は×、問2は△であった。先生に詰め寄り、絵具の3原色の方は○になったが、光の3原色は×のままであった。光を3色混ぜれば絶対に白色になるというのが、先生の主張であった。大学に入り、「白色雑音」という単語に出会った。白色雑音とは、不規則に上下に振動する波であり、この波をフーリエ変換して得られるパワースペクトルは、全ての周波数で同じ強度となる。全ての周波数を含んだ光が白色であることからその表現を借り白色雑音と呼ばれ



光の3原色



絵具の3原色

ること。成程、白色とは3原色の混合だけでなく、全ての周波数成分を含んでいなければならない、即ち、問1の回答も私の方が正しかったのだと納得しつつ、別の疑問が湧いてきた。

光の3原色である赤色、緑色、青色の円の重なった部分、例えば、赤色と緑色が重なった部分は黄色になっている。黄色のスペクトラムは赤色、緑色のスペクトラムとは異なる。でも、単なるスポットライトの重畳である線形回路に周波数 f_1 と f_2 の信号を入れても $(f_1 - f_2)$ の信号は得られない。非線形回路である混合器(ミキサ)などが必要。デジタルカメラのメカニズムを調べてみると、RGB(赤・緑・青)3色のフィルタを用い、3色の強度を量子化して取り出すだけの簡単な仕組み。一体誰が、あの美しい色を作り出すのかと、液晶テレビの原理を調べても、RGB3色を指示された強度にて光らせているだけ、どこにも、非線形回路は存在しない。実は、非線形回路に相当するものは人間の頭脳に組込まれたプログラム。人間の眼の網膜にある3種類の錐体細胞が光を吸収し、吸収された光の割合が色の感覚を生むとのこと。眼が色を認識する仕組みはシンプルで、入力された光のスペクトルを直接認識しているのではなく、錐体細胞に含まれる3つの色素が光を吸収する割合を計測して脳に伝えているだけ。そのため、黄色の波長と同じ刺激を、赤色と緑色の波長の組み合わせにてほぼ同じ刺激を与えることができ、黄色は赤色と緑色の組み合わせとして表現出来る。また、人間は、黄色の波長だけが眼に入っている場合と、赤色と緑色の波長が組み合わされて眼に入っている場合を区別出来ないとのことである。

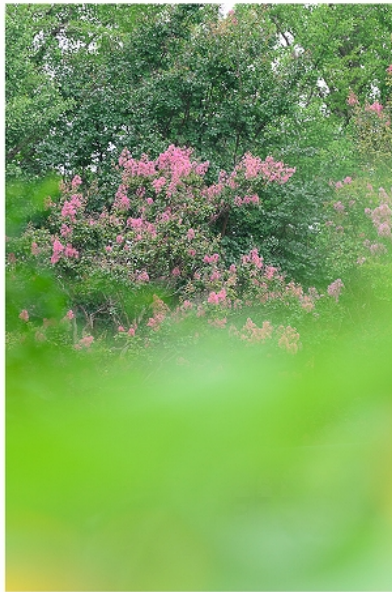
デジ一眼は、撮った写真をJPEG形式に加えRAW形式でも出力可能。RAW形式はカメラメーカー特有のファイル形式の為、Windowsフォトギャラリーの様なソフトで見ることが出来ないが、カメラ付属の現像ソフトにて閲覧でき、また、所謂現像を行うことが出来る。RAW形式のデータはRGBフィルタの出力そのものだから、現像用ソフトにて、各出力を組み合わせれば多彩な表現が可能。撮影時、ホワイトバランス、露出補正、ピクチャコントロールの設定を間違えても、現像の段階にて修正が可能。寧ろ難関は、液晶モニタとプリントの色の微妙な違い。これには、液晶モニタの出力をキャリブレーションし、校正值を現像用ソフトにフィードバックすること、使用する印画紙とプリンタの校正值(プロファイル)をプリンタのドライバにフィードバックすればある程度解決するとあるが、まだ、この段階にたどり着けず悪戦苦闘している段階。



NIKON D7000 35 mm 1/60 秒 (f/2.0) 11年08月13日

以上の背景を理解すると、デジ一眼は面白く、例えば、近所の農協で買った葉生姜の酢漬けを作ったが、美味しそうな出来栄えだったので、

一枚記念写真に撮影、ピントさえ合っていれば自分の作品に、初心者と雖も、自信を持つことをできる。色合いが悪いと言われても、そこはご覧になった方の脳の性能、即ち、校正カーブの相違と勝手に納得すれば済むことだから。写真教室に通いながら悪戦苦闘して撮った作品を、この場をお借りし、展示させていただきます。どしどし厳しいコメントをお願いします。



昭和記念公園にて（平成23年8月9日）

Mwe シニア会ゴルフ同好会便り

今年度初の第 41 回ゴルフ大会は群馬県の高崎サンコー72 GC で 7 月 18 日に開催され、13 名(4 組)の参加がありました。結果は、表1のように優勝がグロス 83 の北條様、準優勝と第3位は高松、奥野様となりました。北條様は前回大会に続いての2回連続優勝となり、年間 MVP 候補に一步近づきました。上位 3 名とも NET が 76 という珍しい結果でしたが、会則に従い、「バックハーフのグロスが良い方を上位とする」等の英国ルールを適用し、順位を決定致しました。夕食は豚シャブコースに舌鼓みを打ち、その後は深夜までテレビのゴルフ観戦となりました(明け方のナデシコ Japan 観戦もあった模様)。

なお新企画として、前日 17 日にはショートコースで念入りにアプローチ、パッティングの練習、調整を行いました。ショートコース(9 ホール 2 回ラウンド、PAR=54)の優勝者は北爪進様で、グロス 57(3 オーバー)の好スコアでした。

表 1 第41回ゴルフ大会結果

	氏 名	GROSS	HDGP	NET
優勝	北條 顯道	83	7	76
準優勝	高松 秀男	90	14	76
第3位	奥野 清則	90	14	76



第 41 回大会優勝の北條様(左)



第 39 回優勝の北爪愛子様(右)



平成 22 年度 MVP の小山様(右)

第 42 回ゴルフ大会は恒例の富士宮 GC で 9 月 10 日に開催。(株)ジェピコ殿から山川様、廣岡様のご参加も頂き、総勢 16 名(4 組)のコンペとなりました。誠に残念だったのは、奥野様が腰痛のため直前に欠席になったことでした。結果は、表 2 のように堀様がグロス 83 で優勝。準優勝は柴富様、第 3 位は松永様となりました。10 日夜は北爪様別荘で BBQ を楽しみながらゴルフ談義に花が咲きました。年間ラウンド数は 40 数回という豊富な練習量の成果なのか、堀様は翌日の反省ゴルフ会(富士チサン)でも堂々グロス 85 で優勝されたのが印象的でした。

表 2 第 42 回ゴルフ大会結果

	氏 名	GROSS	HDCP	NET
優勝	堀 重和	83	7	76
準優勝	柴富 昭洋	92	14	78
第3位	松永 誠	98	17	81



第 42 回大会集合写真



第 42 回大会優勝の堀様(左)



北爪愛子様(左)と酒井様(右)

今後もマンネリに陥ることなく面白いゴルフの企画が出来るようにと心掛けておりますので、多くの皆様からのご意見、ご提案をお待ちしています。(ゴルフ幹事:高松記)

Mwe シニア会行事の状況と今後の活動計画

★ 総会・講演会・懇親会の企画提案

平成 23 年度：

4 月 23 日 Mwe シニア会幹事会（新横浜、ウェブ・エレクトロニクス・ジャパン社会議室）

5 月 11 日 東日本大震災のお見舞会、（仙台、東北大電気通信研究所）

6 月 03 日 Mwe シニア会総会、（メルパルク東京、2 階、「桂の間」）

7 月 30 日 Mwe シニア会会誌編集委員会、（新橋 “ぜん”）

10 月 30 日 木下農園と BBQ 大会、

11 月 30 日～12 月 2 日、MWE2011、（パシフィコ・ヨコハマ）、Mwe シニア会後夜祭

★ Mwe シニア会ゴルフ同好会

第 40 回大会、 3 月 6 日 川崎国際生田緑山 CC

第 41 回大会、 7 月 17 日～18 日、高崎サンコウ 72CC

第 42 回大会 9 月 10 日 富士宮 CC, BBQ

第 43 回大会 12 月中旬予定

（幹事：高松、平井）

★ Mwe シニア会囲碁同好会、

平成 23 年度予定：

第 1 回例会 3 月 （於）菊名囲碁センター

第 2 回例会 9 月 （於）菊名囲碁センター

第 3 回例会 11 月 （於）菊名囲碁センター

第 4 回例会 1 月 （於）菊名囲碁センター

（幹事：平井、平野、北爪、）

編集雑感

今年は春より国内では天災、人災が相次いだ。1000 年に 1 度との東日本大震災とその巨大津波による死者行方不明者 2 万人。福島第一原子力発電所の暴走と放射性物質の飛散。夏には台風 12 号による 3 日間の想像を絶する降雨量 2400mm に伴う紀伊半島の洪水、山崩。各地に大被害をもたらした。この災害原因究明と今後の対策を想定外の出来事として片づけてしまってよろしいのだろうか？ある保育園の園長さんが地震発生後、15 名の園児を職員の 3 台の車に分乗させ、渋滞が少ないと思われる予め設定していた避難ルートに従い、小高い丘へ避難。全員が無事であった。また、ある幼稚園ではマイクロバスに園児を乗せて避難を始めたが、避難ルートが分からなかったのか不幸にも津波に飲まれてしまった。地震、火山噴火、台風等の天災に囲まれた狭い災害多発国日本に永住するからには常日頃から災害に対する準備万端怠らないことが被害を最小限度のとどめる方法であらう。被災され亡くなられた方々の冥福をお祈り致します。

（文責：柴富）

Mwe シニア会 会員の加入状況

Mwe シニア会に 2011 年 9 月末現在、個人会員 58 名、賛助会員 2 名（個人 1，法人 1）となりました。今後とも会員数の拡大に向け皆様のご協力をお願い致します。

会員名簿（五十音順・敬称略）

赤田 邦雄
栗井 郁雄
青野 義夫
飯田 明夫
井下 佳弘
石田 修己
泉 彰
井田 雅夫
伊東 正展
海上 重之
大友 元春
大沼 透
岡田 孝夫
奥野 清則
影山 隆雄
春日 義男
風神 裕
片木 孝至
北爪 進
木下 亮英
小谷 範人
清野 幹雄
許 端邦
紅林秀都司
倉知 孝一
小林 禧夫
小山 悦雄
酒井 正人
坂野 泰正
佐藤 軍吉
柴富 昭洋
菅田 孝之
鈴木 洋介
高木 直
高橋 弘
高松 秀男
武田 茂
田中 淳
田辺 英二

谷口 光洋
遠山 嘉一
百々 仁次郎
橋本 勉
平井 克己
平野 裕
北條 顯道
堀 重和
本間 邦夫
牧本 三夫
松永 誠
松本 巖
三浦 太郎
三島 克彦
水品 静夫
山下 與慶
脇野 喜久男
渡邊 邦夫
篠原 己拔

賛助会員
関 周（個人）
アイ電子（株）（法人）